

2021 年 8 月

食料安全保障月報

(第 2 号)



令和 3 年 8 月 3 1 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 8 月食料安全保障月報（第 2 号）

目 次

概要編

I	2021 年 8 月の主な動き	1
II	2021 年 8 月の穀物等の国際価格の動向	2
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 収穫期を迎える旧ソ連諸国の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	9
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	10
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	11
4	FAO 食料価格指数の推移	13
5	食品小売価格の動向	14

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞ 北部の干ばつの影響で春小麦、デュラム小麦が減産見通し	
	＜カナダ＞ 継続する平原三州の干ばつ天候で減産見通し	
	＜豪州＞ 生産量は史上第 3 位の豊作	
	＜EU＞ フランス、ドイツ等で降雨による品質低下の懸念	
	＜中国＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し	
	＜ロシア＞ 生産量は冬枯れ等により前月に比べ 12.5 百万トンの下方修正	
2	とうもろこし	8
	＜米国＞ 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し	
	＜ブラジル＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見通し下方修正	
	＜アルゼンチン＞ 増産見通しも輸出税継続	
	＜中国＞ 収穫面積増で増産、飼料用需要も増加見通し	
3	コメ	13
	＜米国＞ 約 2 年ぶりにイラクに輸出	
	＜インド＞ 2021 年 7 月までにベトナムへの輸出量が約 70 万トン	
	＜中国＞ 引き続き輸入増により期末在庫量が前月から上方修正	
	＜タイ＞ 2 年連続の増産により輸出が回復見込み	
	＜ベトナム＞ 競合するインドとコメの輸出価格が同水準に	

Ⅱ	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	＜米国＞ 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し	
	＜ブラジル＞ 収穫面積増で増産、史上最高となる見通し	
	＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
	＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
	＜カナダ＞ 高温乾燥の影響懸念も東部の降雨で緩和	

【利用上の注意】

表紙写真：豪州西オーストラリア州の小麦（7月26日撮影）。
天候に恵まれ良好な生育状況となっている。

(概要編)

I 2021 年 8 月の主な動き

早期注意段階の継続について

2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、8 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について（農林水産省HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 成熟期を迎える米国の状況

米国のとうもろこし、大豆は、高温・乾燥の影響があったコーンベルト北西部を除き、おおむね順調に受粉期、開花期を乗り切ったとみられる。8 月の米国農務省（USDA）の需給報告では、本年第 1 回目の作柄調査の結果、単収が 7 月時点の見通しからとうもろこし、大豆とも引き下げられたため、生産量は、それぞれ 1,050 万トン、180 万トン下方修正され、それぞれ 3 億 7,470 万トン、1 億 1,810 トンとなった。しかしながら、前年度よりは増産となる見通し。期末在庫率はとうもろこしは 8.5%、大豆は 3.5%と 2 年連続で一桁台となっている。

一方、小麦は、春小麦が 6 月から 7 月にかけて主産地の米国北西部で生育期の高温・乾燥の影響を受け減産見通しとなっているが、冬小麦も単収が引き下げられたことから生産量は 7 月からさらに 130 万トン下方修正され、小麦全体で 4,620 万トン（前年度比 7.1%減）の見通しとなっている。

期末在庫率は、前年度の 40.0%から 30.4%へ低下する見込み。 写真：カナダアルバータ州の小麦（8 月 16 日撮影）
干ばつの被害を受けている

2 カナダの生産・輸出動向

カナダ西部の平原州では、6 月からの高温乾燥が 7 月まで継続し、8 月には一部降雨があったものの、小麦や菜種の作柄の改善には遅すぎたとみられている。USDA の 8 月の需給報告によれば、2021/22 年度の生産量は、小麦は 2,400 万トン、菜種は 1,600 万トンと前月よりそれぞれ 750 万トン、420 万トン下方修正された。8 月下旬には収穫期を迎えた。

生産減に伴い、輸出量も小麦は 1,750 万トンと前月より 550 万トン下方修正、菜種は 690 万トンと 320 万トン下方修正された。なお、小麦に関しては、世界的には、EU や豪州では増産も、米国やロシアなど不作となっており、特にデュラム小麦の需給が引き締まるとみられる。一方、菜種に関しては、世界の貿易に占めるカナダの輸出シェアが 6 割と大きいと、国際需給が引き締まる懸念がある。

一方、カナダ東部は 7 月以降、降雨に恵まれ、大豆については、順調に生育しており、USDA によれば、生産量の見通しは 610 百万トンと前月からの変更はない。

なお、カナダ政府は 8 月 15 日に最大 5 億カナダドルの干ばつへの農家支援を公表。



3 南米の乾燥と霜害が発生したブラジル

パラナ川の上流に当たるブラジル南部からアルゼンチン北部にかけ、今年に入り降雨が少なく、水位が低下している。そのため、アルゼンチン政府は7月26日に180日間の渇水の緊急事態を発令し、下流に位置するロサリオ港を始めとする穀物輸出港からの貨物の積載量も制限されることとなった。このため、アルゼンチンの穀物輸出について、バイアブランカなど南部の海岸沿いの港からの輸出が必要となり、輸血量や運賃の上昇などの影響が生じるとみられている。

また、ブラジル南部では降雨不足が継続した後、6月下旬から7月下旬にかけて断続的に低温となり霜害が発生し、冬とうもろこしを初め、小麦やサトウキビ等に影響があったとみられる。ブラジル食料供給公社の8月見通しによれば、干ばつと霜害により、とうもろこしの生産量は7月の9,360万トンから680万トン下方修正され、8,670万トンと、前年度（1億250万トン）と比べ15.5%の減産となっている。

II 2021年8月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、7月末、250ドル/トン台後半で推移。8月に入り、ロシア産小麦の減産予測から一時260ドル/トン台後半に値を上げたものの、米国産の作柄評価が予想を上回ったこと、とうもろこし価格等の下落から260ドル/トン台前半に下落した。中旬には、USDAの8月需給報告で、ロシア、カナダ等の生産量の減少見込みから280ドル/トン前後に値を上げた。その後は、米国等の小麦輸出国の需給逼迫懸念に下支えされながらも、ドル高やとうもろこし、大豆価格の下落から値を下げ、8月下旬現在、260ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、7月末、210ドル/トン台半ばで推移。8月に入り、米国中西部の乾燥地域の高温・乾燥による作柄への影響懸念、USDAの8月需給報告で米国産とうもろこしの生産量予測が市場予想を下回ったこと、ブラジルの冬とうもろこしの生産量予測が干ばつに加え霜害により大幅に下方修正されたこと等から一時的に値が上がったものの、ドル高や原油安等の影響を受け上値が抑えられ、8月下旬現在、210ドル/トン台前半で推移。

コメは、7月末、410ドル/トン台後半で推移。バーツ安や海上コンテナ運賃の高騰から8月上旬には410ドル/トン台前半まで値を下げたが、価格下落によりアフリカやASEAN諸国等からの新規需要が発生し、8月中旬現在、420ドル/トン台前半で推移。

大豆は、7月末、520ドル/トン前後で推移。8月に入り、米国中西部の乾燥地域の高温・乾燥による作柄への影響懸念や中国向け等の新たな輸出成約等から8月中旬に530ドル/トン前後まで一時値を上げた。その後、乾燥地域への降雨予報やドル高等で大幅に下落し、8月下旬現在、470ドル/トン台半ばで推移。

（注）小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 2,650 万トン下方修正され 27.7 億トン。消費量は、前月から 800 万トン下方修正され 27.9 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 27.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.7 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、4.9 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.6 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。

（注：数値は 8 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による）

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3 億トン。消費量は前年度を上回り 6.2 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、17.4%となる見込み。

（注：数値は 8 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」による）

V 今月の注目情報: 収穫期を迎える旧ソ連諸国の穀物の生産・輸出状況

2021/22年度のロシアの穀物生産は、冬小麦の冬枯れにより、史上最高水準の豊作だった前年度からは大幅に減産となる見込みである。一方、ウクライナは前年の干ばつから一転、天候に恵まれ、増産が見込まれている。また、カザフスタンは乾燥により減産の見通しである。各国とも、昨年以降、輸出税や輸出上限数量の設定など輸出規制の設定を繰り返している。最近の状況をまとめた。

1 旧ソ連諸国の生産動向

図1 ロシアの穀物生産量の推移

(1) ロシア

7月以降、ロシアでは冬小麦などの冬穀物の収穫が開始され、8月6日時点で穀物等の収穫は46%進展しており、9月にかけて最盛期を迎えるとみられる。米国農務省(USDA)の8月の需給報告において、2021/22年度の生産見通しは、史上最高水準の豊作の2020/21年度の8,540万トンから15%減の7,250万トンとなった。

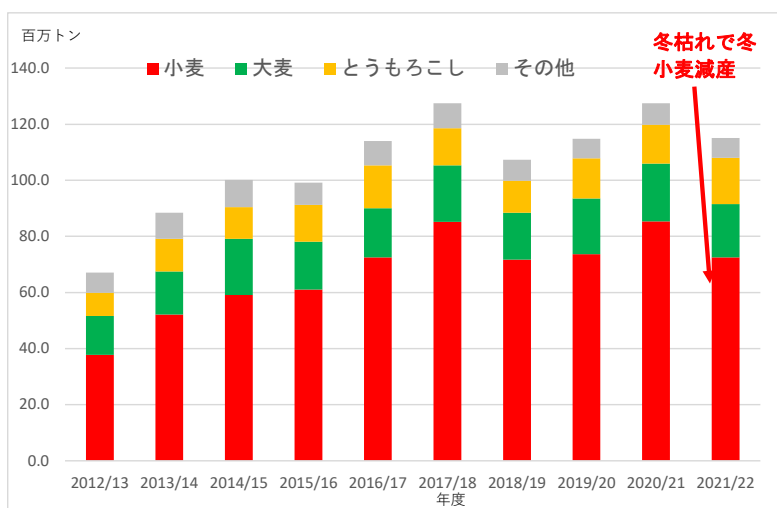
冬小麦が、2月から3月にかけて、気温上昇による解凍後の気温低下による再凍結に起因する冬枯れによる被害があったとみられる(図4の1, 2参照)。

一方、とうもろこしは小麦と比較して生産量は少ないものの前年度より19%増の史上最高の1,650万トンが見込まれている。

また、油糧種子では、ひまわり種の産地で知られ、その生産量は2021/22年度は1,550万トンと見込まれている。最近は大豆の生産も年々増加傾向にあり、もともと中国向け輸出で生産が行われていた極東に加え、国内の畜産需要向けに欧州部でも生産量が増加しており、2021/22年度は史上最高の460万トンが見込まれている。土壌水分量は8月に入り改善されているとみられる。(図4の4)

(2) ウクライナ

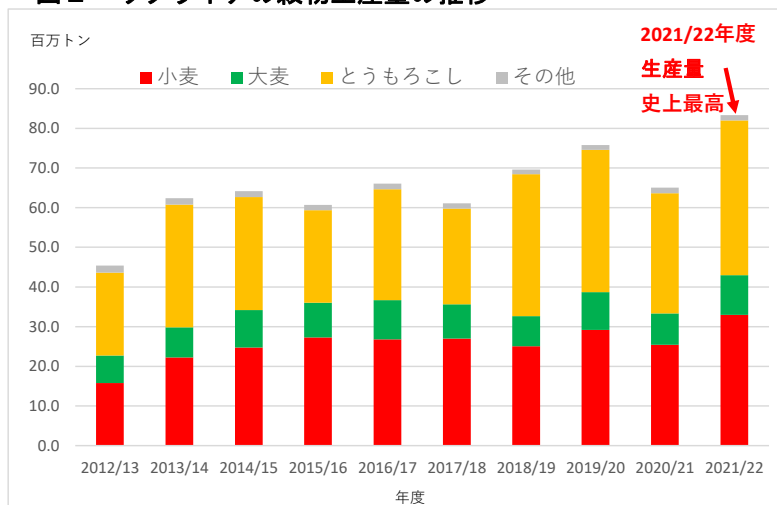
2021/22年度の小麦は、生産量の多くを占める冬小麦が春季の降雨に恵まれ順調



資料: 米国農務省「PS&D」(2021. 8)

注: その他には、コメ、ソルガム、ミレット、オーツ、ライ麦
ミクストグレインを含む(以下同じ)

図2 ウクライナの穀物生産量の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(2021. 8)

に生育し、8月12日時点で収穫が9割程度進展しており、USDAによれば、前年度比30%増の史上最高の3,300万トンが見込まれている。

一方、とうもろこしについては、干ばつ被害を受けた前年度と異なり、天候に恵まれており、前年度比29%増の史上最高の3,900万トンが見込まれている。

写真 ウクライナの小麦の収穫 (8月2日撮影)
天候に恵まれ作柄は良好



(3) カザフスタン

カザフスタンにおいては、主に穀物生産は春小麦が中心であるが、2021/22年度は、乾燥の影響を受けて作付面積は増加も単収が低下するため、前年度より減産見込みとなっている。

2 旧ソ連諸国の輸出動向

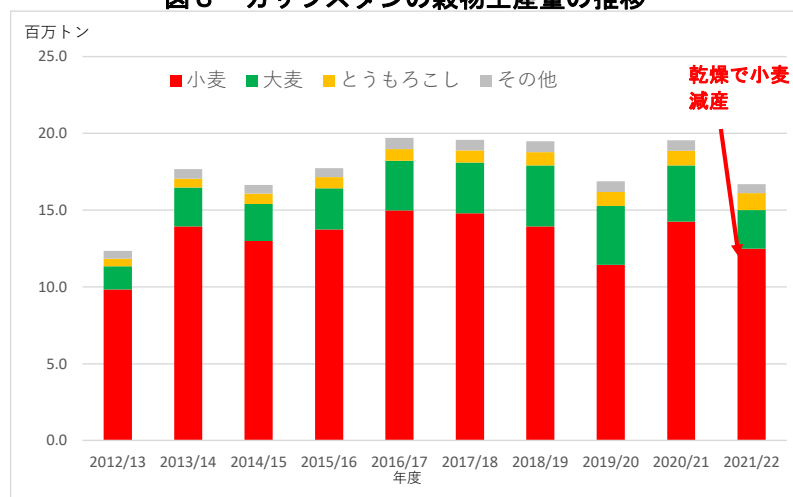
(1) ロシア

ロシアについては2020年の3月以降、国内の穀物価格高騰を回避する目的で輸出割当を公表して以来、断続的に輸出規制をおこなっている。

2020/21年度は小麦が史上最高水準の豊作になったにもかかわらず、国内価格の高騰を防ぐ目的で、2021年2月以降、小麦を含む穀物に輸出枠1,750万トンと枠内税率、枠外税率を設定した。3月15日時点で、枠内税率小麦50ユーロ/トン、大麦10ユーロ/トン、とうもろこし25ユーロ/トン、枠外税率50%（ただし100ユーロ/トン以上）となり、輸出枠は6月末には終了した。他方、輸出関税については、6月2日以降、上記の固定の輸出関税に代えて、毎週の輸出価格に応じて変動する可変輸出関税を小麦、とうもろこし、大麦について導入している。

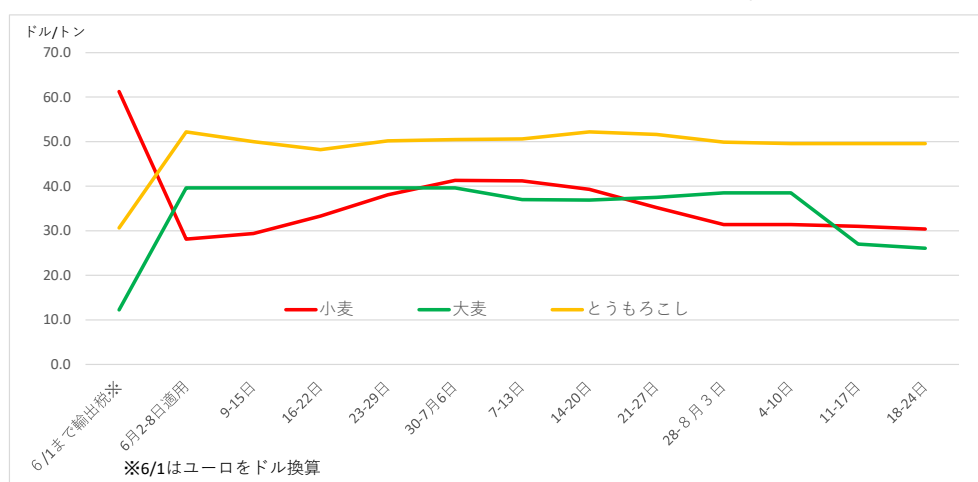
6月2日に導入した小麦の可変輸出関税は28.1ドル/トンと6月1日までの固定の輸出税（ドル換算で61ドル/トン程度）を下回ることから、6月以降小麦の輸出が促進

図3 カザフスタンの穀物生産量の推移



資料：米国農務省「PS&D」（2021. 8）

図4 ロシアの輸出関税の推移



された。輸出枠がなくなった7月以降も30ドル～40ドルの範囲で推移している。一方、6月2日以降の大麦やとうもろこしの可変輸出関税は、6月1日までの固定の輸出税を上回り、大麦は40ドル/トン前後で推移していたが、8月後半に、30ドル/トンを下回った。とうもろこしは50ドル/トン前後で推移している。

このような状況のもと、USDAによれば、2021/22年度の小麦の輸出量は3,500万トン（前年度比9%減）、とうもろこしの輸出量は500万トン（前年度比61%減）と見込まれている。

（2）ウクライナ

2020/21年度（7～6月）の輸出上限数量は、政府と穀物業界団体との合意に基づき、小麦1,750万トン（2020年8月設定）、とうもろこし2,400万トン（2021年1月設定）となっていた。しかし、USDAの本年の8月見通しによれば、減産に伴い、2020/21年度の小麦輸出量は1,680万トン（7～6月）、とうもろこしも2,350万トン（10～9月）と見込まれている。これらの輸出量は、上記の輸出上限数量を下回るとみられる。

2021/22年度は、同様にUSDAによれば、増産見通しに伴い、小麦の輸出量は2,350万トン（前年度比40%増）、とうもろこしの輸出量は3,200万トン（前年度比36%増）と見込まれている。政府と穀物業界団体は2021/22年度に関しても、7月5日時点で輸出上限数量を設定することで合意書を作成しており、8月下旬には小麦に関して具体的な数量が提示された付属書が作成されるとみられる。

（3）カザフスタン

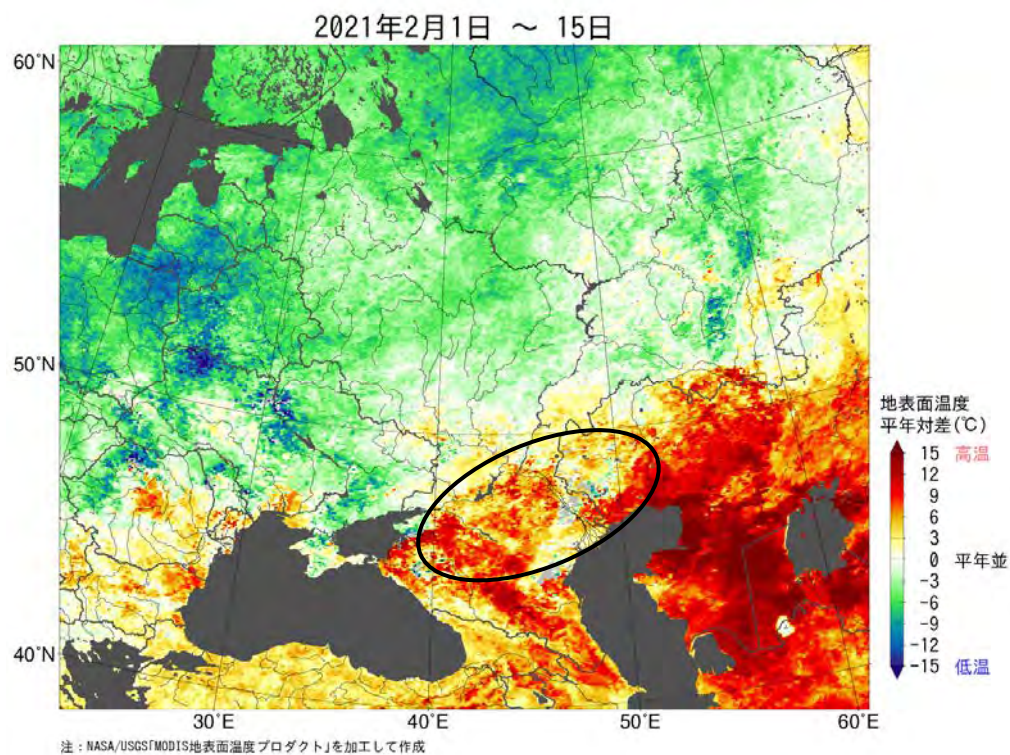
2021/22年度は、乾燥の影響による減産見通しによる国内向けの穀物の確保のため、8月23日以降、6か月間のオーツやライ麦等の輸出禁止が行われ、9月1日以降、6か月間の5等小麦などの輸出枠の設定が行われる見通し。

（4）国際貿易への影響

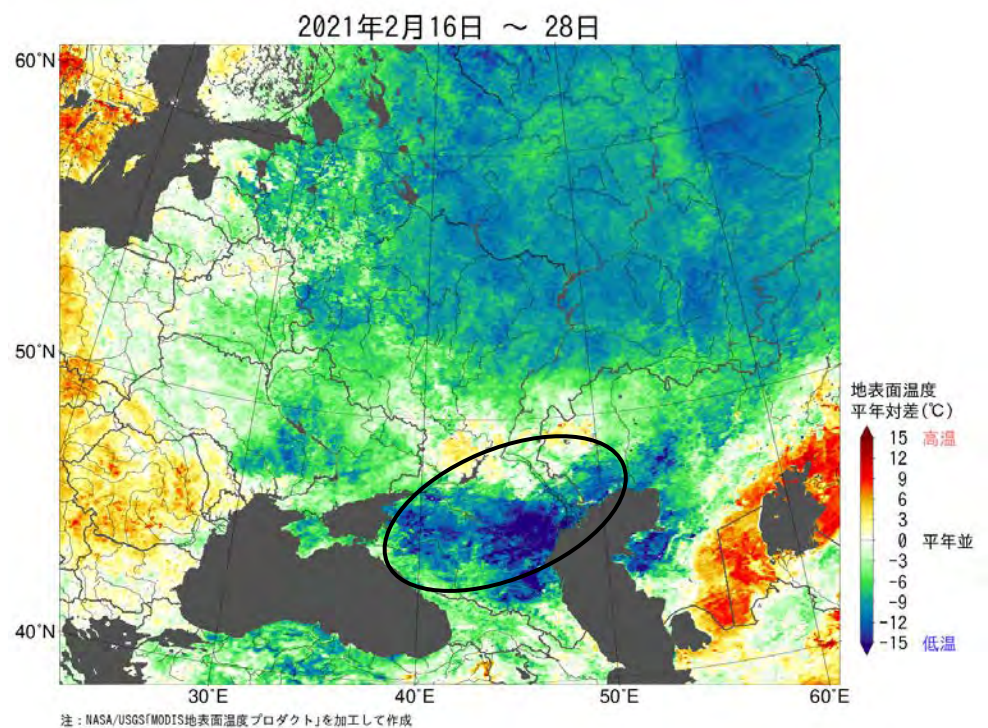
旧ソ連諸国の穀物輸出は、ウクライナのとうもろこしを除いて、世界的に生産国や輸出国の多い小麦が中心であることから、今までロシアの輸出税等の輸出規制が国際需給へ与える影響は限定的であった。ただし、2020/21年度のウクライナのとうもろこしの減産による輸出減は、中国の米国産とうもろこし輸入の増加につながった。

2021/22年度についても、ロシアは小麦、とうもろこし等に輸出税を継続し、ウクライナも小麦に輸出上限数量を設定予定、カザフスタンも小麦等に輸出枠を導入予定である。特に小麦に関して、ロシアの減産に加え、北米の春小麦が干ばつの影響を受け、USDAの8月需給報告で2021/22年度の世界の生産量や輸出量の見通しが大きく引き下げられた。旧ソ連諸国の穀物の輸出動向については、中国の今後の輸入動向にもよるが、場合によっては国際需給へ大きな影響を与える可能性もあることから、今後も注視していく。

図4 (1) JASMAI ロシア西部、ウクライナの地表面温度平年対差 (2021年2月前半)
 ロシア南部の地表面温度が平年より上昇し、解凍 (黒丸)

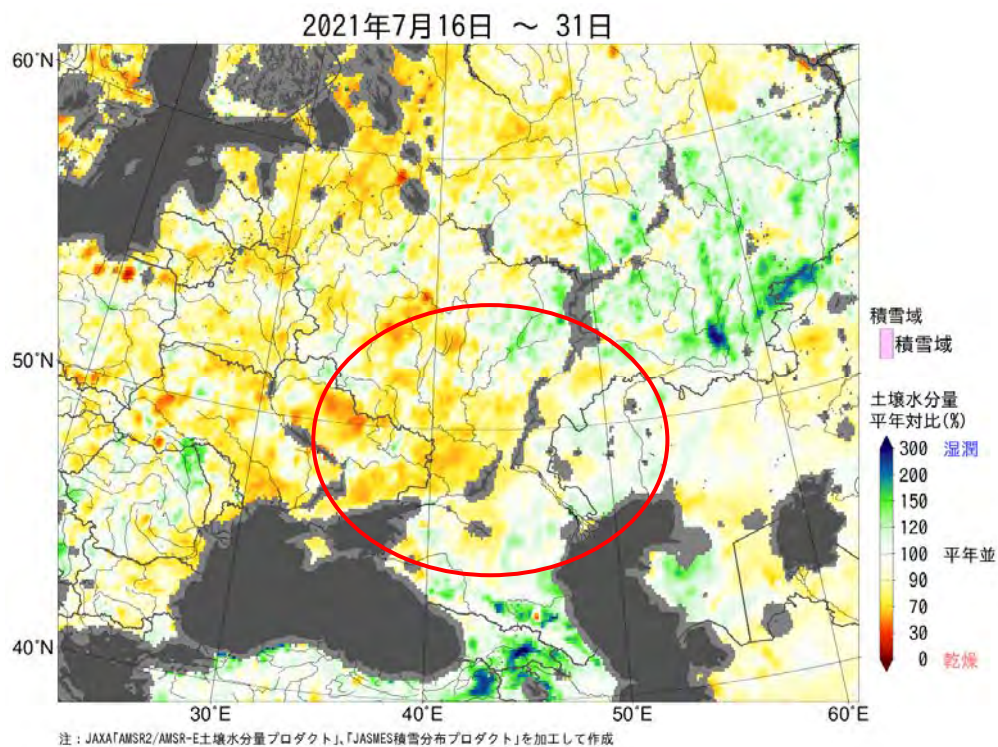


(2) JASMAI ロシア西部、ウクライナの地表面温度平年対差 (2月後半)
 一転、ロシア南部の地表面温度が平年より低下し、再凍結 (黒丸)



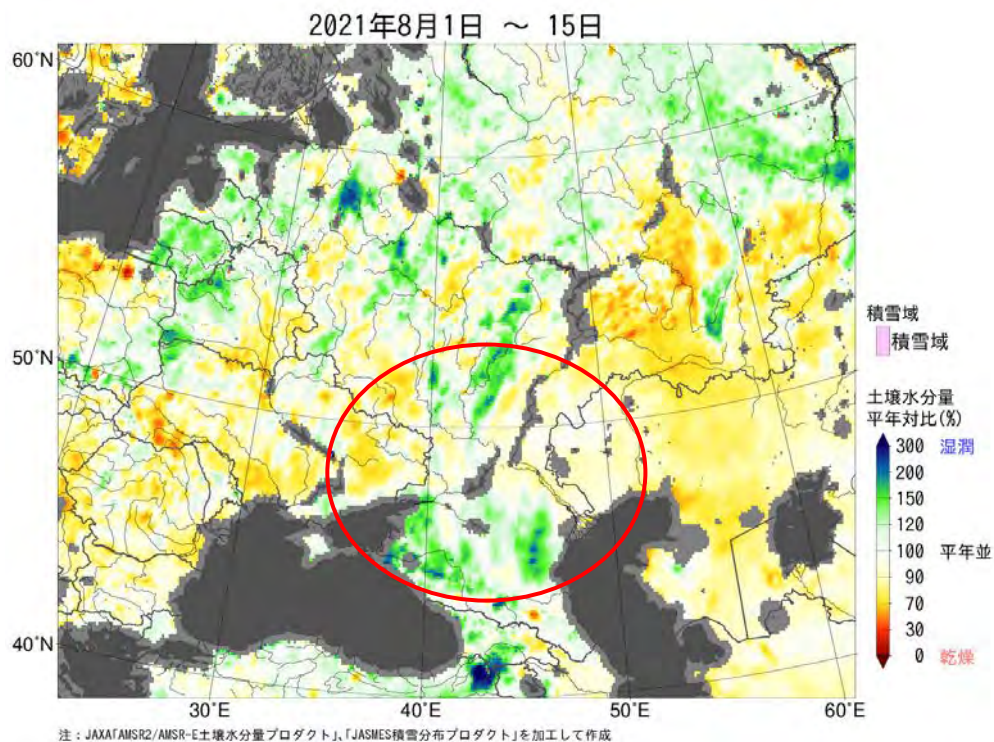
(3) JASMAI ロシア西部、ウクライナの土壌水分平年対比（7月後半）

平年より土壌水分が少ない状況（赤丸）



(4) JASMAI ロシア西部、ウクライナの土壌水分平年対比（8月前半）

多くの地域で平年より土壌水分が少ない状況（赤丸）が継続も、一部で改善



資料：農林水産省「農業気象情報衛星モニタリングシステム」

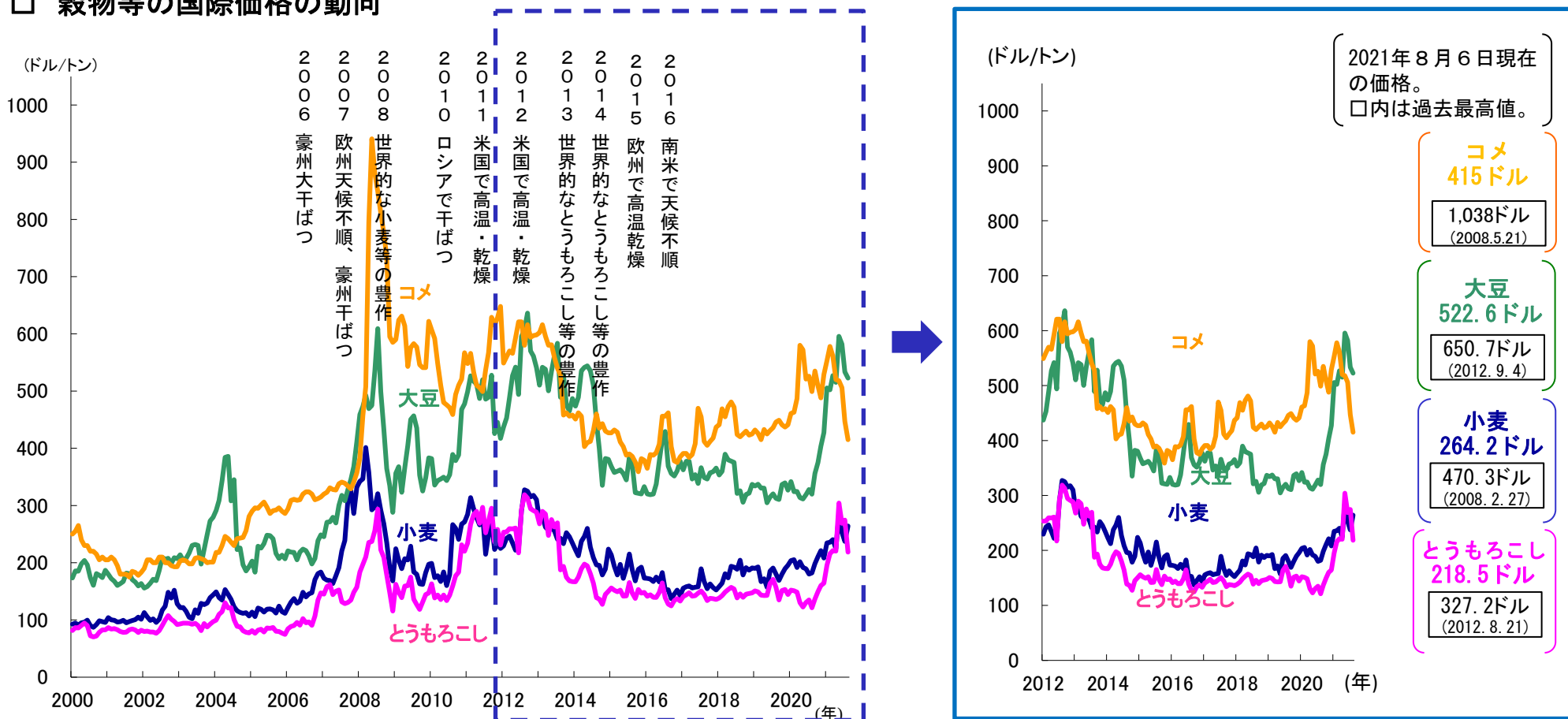
<https://jasmai.maff.go.jp/>

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥懸念、中国の輸入需要の増加等により、大豆、とうもろこしを中心に上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



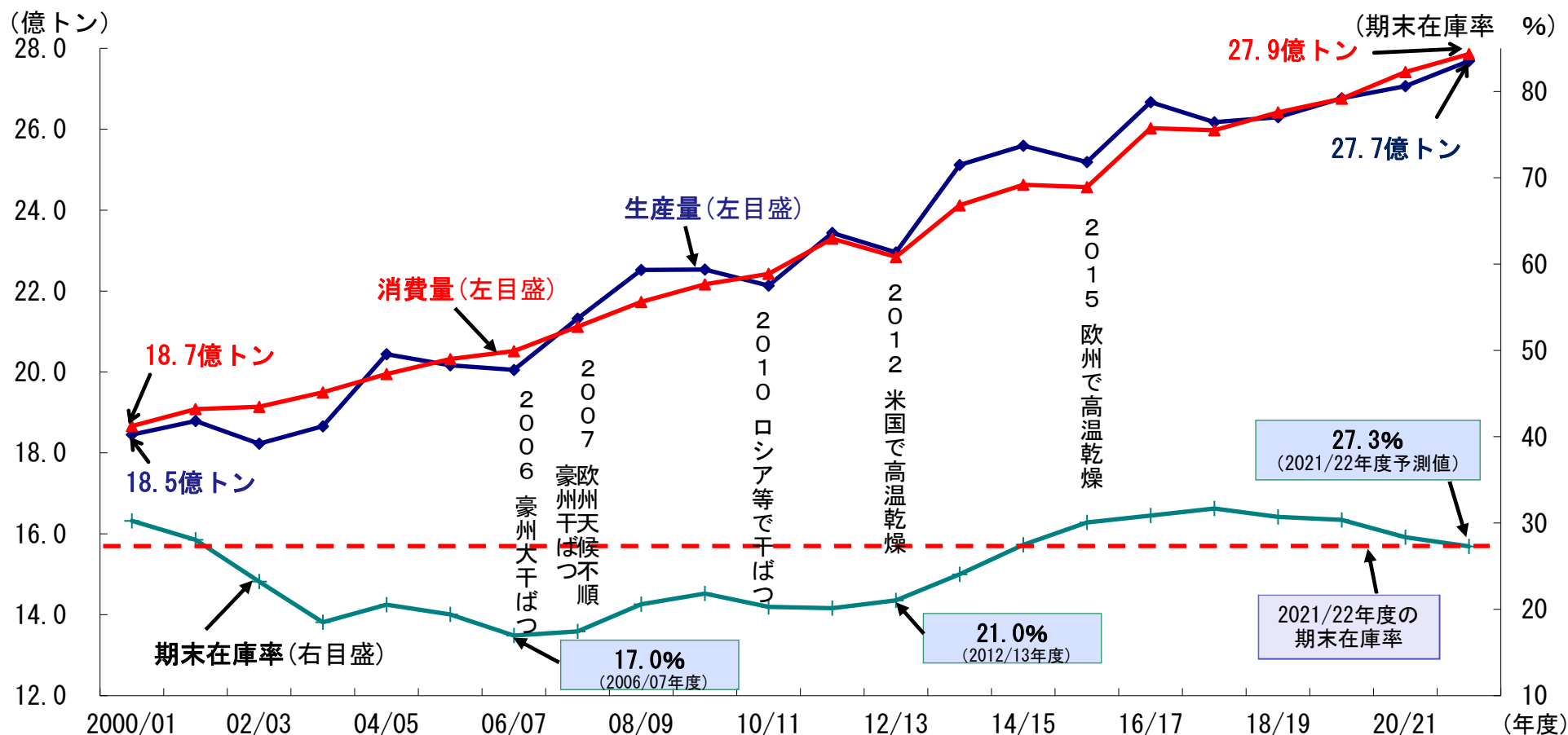
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、27.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

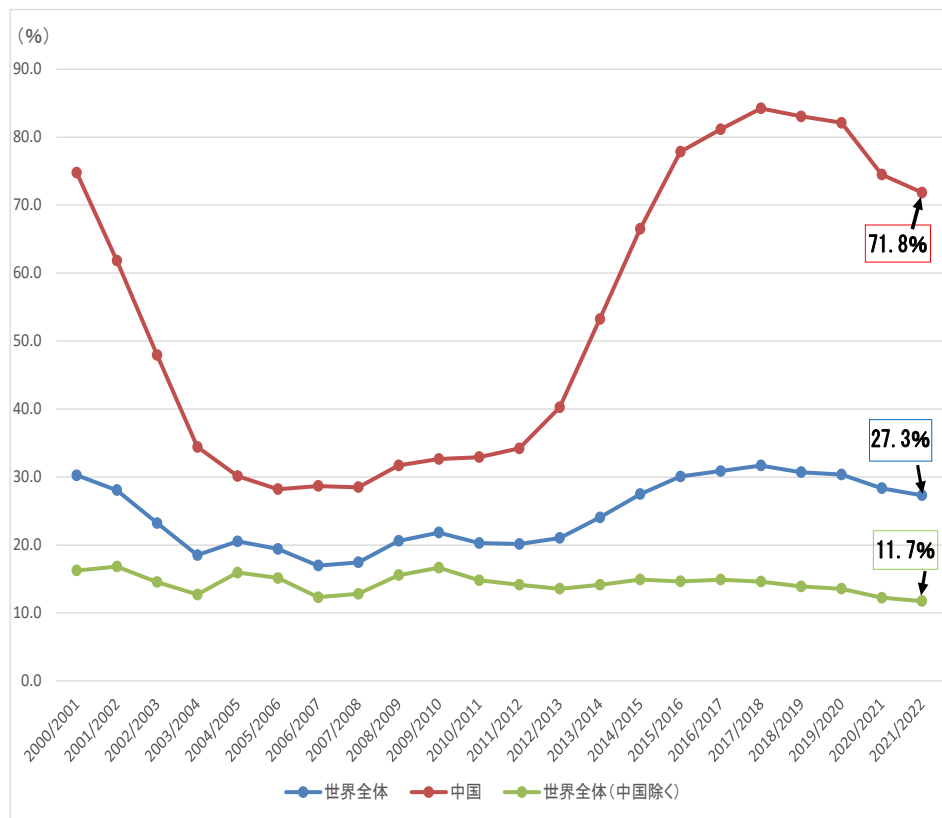


資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 2021)、「PS&D」

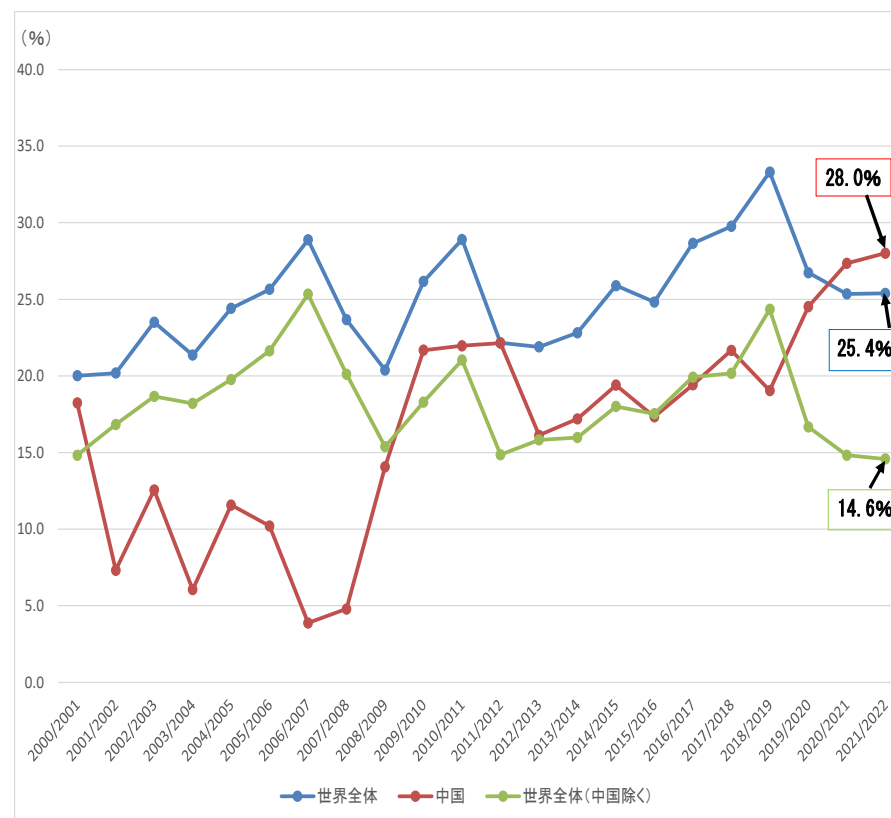
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(August 12, 2021)

注：1) 穀物とはとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

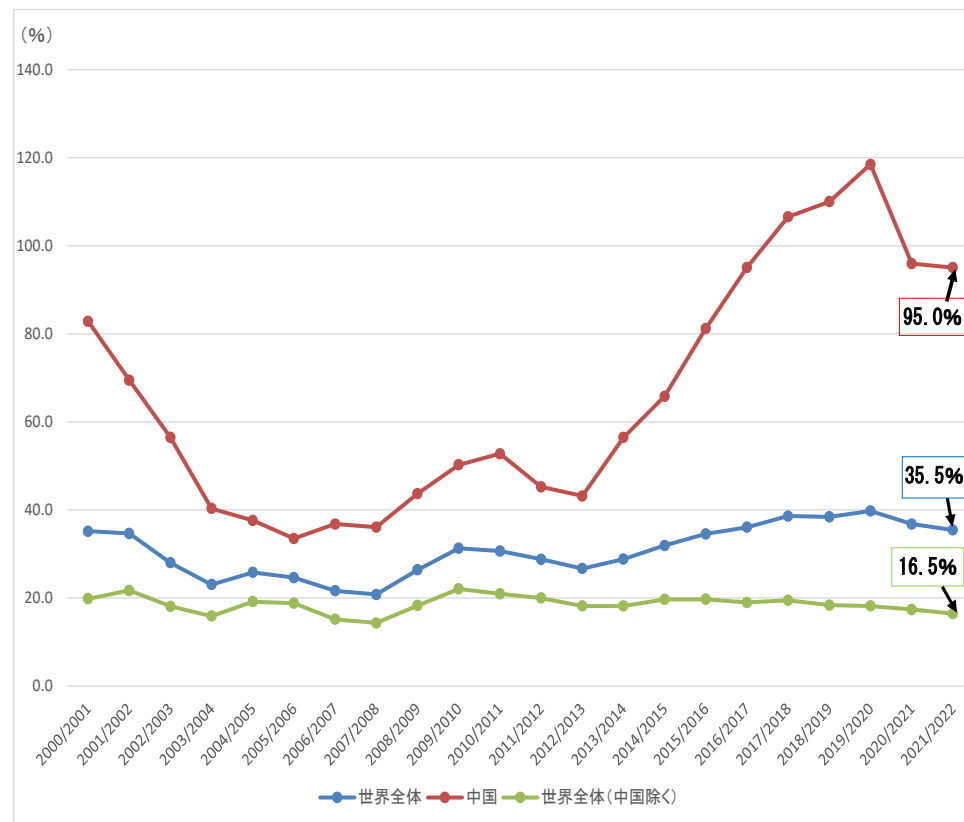
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

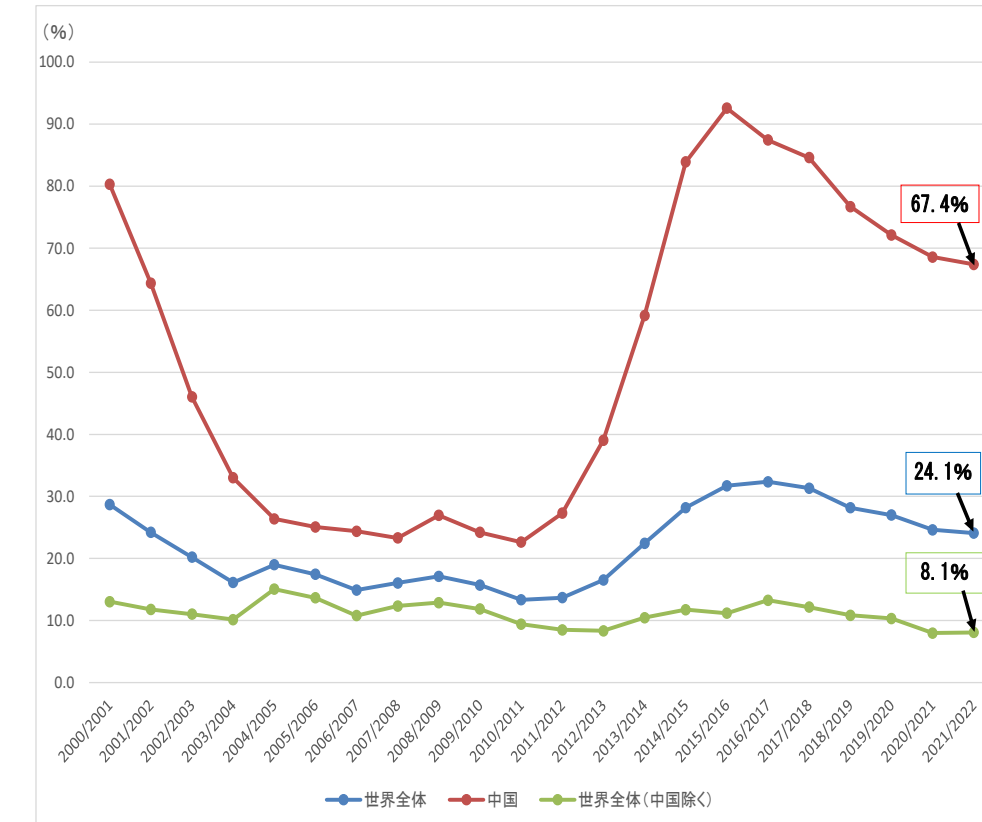
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(August 12, 2021)

注: 1) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

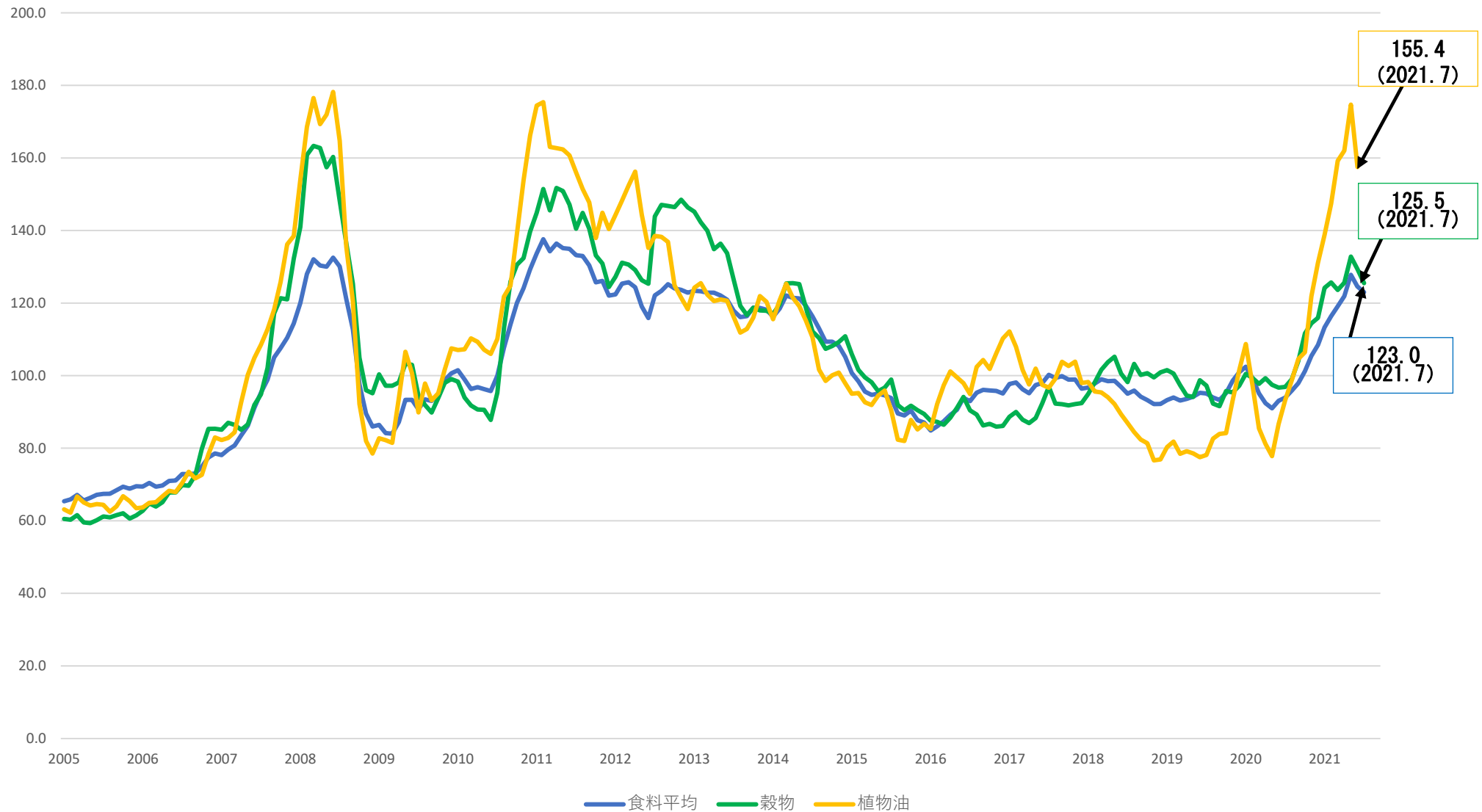
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 4 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.08)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料5 食品小売価格の動向

○ 国内の加工食品の小売価格については大きな値動きはなし。

消費者物価指数（総務省）
（令和3年2月～令和3年7月）

【参考】
食品価格動向調査（農林水産省）
（令和3年2月～令和3年8月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	2月	3月	4月	5月	6月	7月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	99.0	98.7	99.2	98.3	99.0	99.3	-0.7%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	100.5	100.1	101.1	99.7	99.0	100.4	-0.5%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.7	100.9	100.9	101.0	100.8	101.0	1.4%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	98.9	98.1	98.7	99.4	102.3	103.9	3.6%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	99.7	100.1	99.9	100.0	98.6	99.5	-0.9%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	100.3	99.5	100.3	97.9	96.5	98.7	-0.7%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.9	99.8	99.8	99.9	99.9	99.9	-0.2%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	100.2	100.5	99.7	100.6	100.0	108.6	9.2%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	99.9	99.9	99.8	100.0	100.0	100.1	0.1%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3									
品目	平均	平均	平均	平均	平均	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)	
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	99.7	99.7	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	-0.3%	-1.5%	
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	0.0%	-0.6%	
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	101.6	99.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	0.8%	1.7%	
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	97.3	96.9	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	5.4%	5.7%	
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	100.4	99.4	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	0.9%	-1.4%	
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	101.0	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	-0.4%	-0.9%	
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	99.9	100.2	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	0.0%	-0.7%	
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	99.0	98.7	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	1.3%	6.2%	

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～8月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

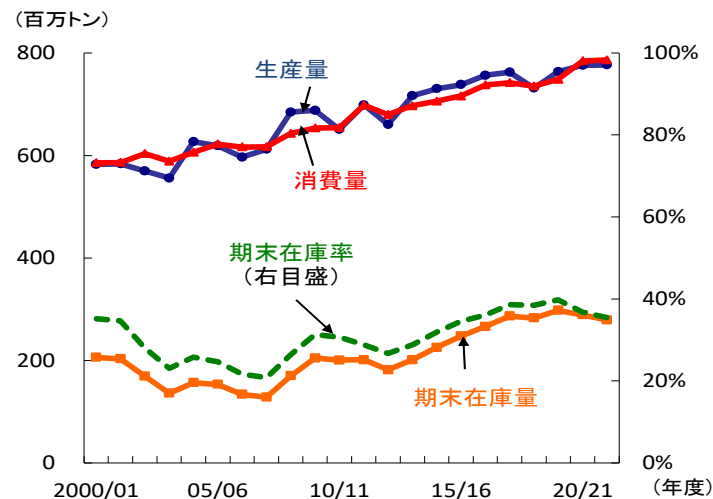
消費量 前年度比  前月比 

- ・EU等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正も、ロシア、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.8.12）をもとに農林水産省にて作成

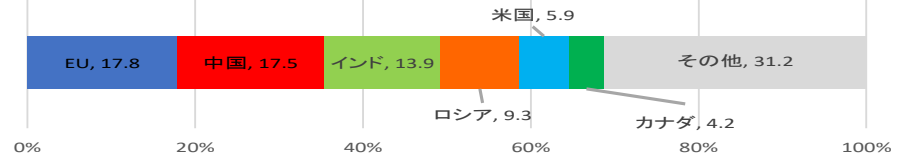
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

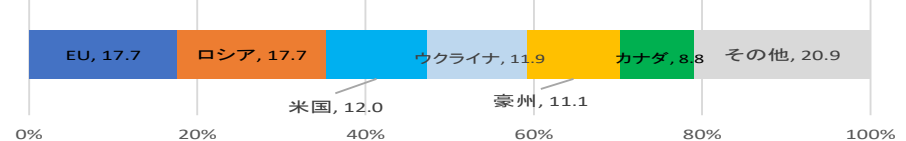
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	763.6	775.8	776.9	▲ 15.5	0.1
消 費 量	748.6	784.7	786.7	▲ 4.2	0.2
うち飼料用	139.0	158.2	157.4	▲ 3.2	▲ 0.5
輸 出 量	195.0	201.6	198.2	▲ 5.8	▲ 1.7
輸 入 量	187.6	194.3	196.4	▲ 5.6	1.1
期末在庫量	297.7	288.8	279.1	▲ 12.6	▲ 3.4
期末在庫率	39.8%	36.8%	35.5%	▲ 1.4	▲ 1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2021）

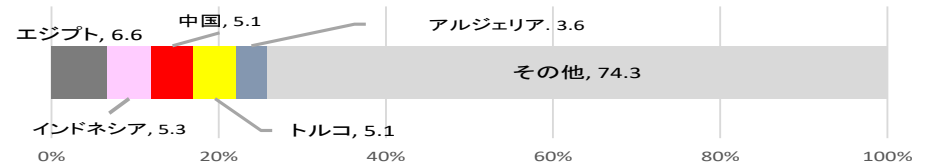
○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量（776.9百万トン）（単位：%）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量（198.2百万トン）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量（196.4百万トン）



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 北部の干ばつの影響で春小麦、デュラム小麦が減産見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、単収の低下により前月予測から 1.3 百万トン下方修正され、前年度に比べ 7.1 %減の 46.2 百万トン。

同「Crop Production」(2021.8.12)によれば、冬小麦は、単収が低下することから、生産量は前月予測から 3%下方修正されたものの前年度(31.9 百万トン)を 13%上回る 35.9 百万トン。また、春小麦は、プレーンズ北部の干ばつにより、単収が 2002/03 年度以降最低となることから、生産量は前月予測から約 1%下方修正され、前年度(15.9 百万トン)を 41%下回る 9.3 百万トン。デュラム小麦も同様に、単収が 1988/89 年度以降最低の水準に低下することから、生産量は前月予測から約 7%下方修正され、前年度(1.9 百万トン)を 50%下回る 0.9 百万トンで、ここ 60 年で最低の水準となる見込み。

なお、春小麦産地の 99%、デュラム小麦産地の 100%が、干ばつが継続する地域に含まれ、主要生産 6 州のうち生産量の最も多いノースダコタ州の生産量は、前年度に比べ春小麦が 37.5%、デュラム小麦が 54.8%減少する見込み。

同「Crop Progress」(2021.8.9~8.23)によれば、冬小麦は、8月8日時点で、収穫進捗率(主要生産 18 州)が前年度同時期の 89%を上回る 95%に達し、収穫はほぼ終了。春小麦は、乾燥天候で生育が早く進み、収穫進捗率(主要 6 州)は、8月22日時点で 77%と前年度同期の 58%、5年平均の 55%を上回っている。なお、作柄評価は、8月15日現在、良～やや良が 11%で、前年度同期の 70%を下回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8 百万トン。米国太平洋岸北西部の干ばつ天候により、主にアジア市場向けに輸出されるホワイト小麦の輸出量は、生産量の減少で前年度に比べ 41%減少。このため、地理的に近い豪州への需要が強まる見込み。また、主に EU、北アフリカに輸出しているデュラム小麦の輸出量も、前年度の 60 万トンから本年度は 40 万トン以下に減少する見込み。

小麦－米国 (冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.7	46.2	▲ 1.3	▲ 7.1
消費量	30.4	30.5	32.2	▲ 0.3	5.8
うち飼料用	2.6	2.7	4.4	▲ 0.3	61.1
輸出量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	4.0	-	46.3
期末在庫量	28.0	23.0	17.1	▲ 1.0	▲ 25.8
期末在庫率	49.3%	40.0%	30.4%	▲ 1.7	▲ 9.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.87	15.42	-	3.7
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.99	▲ 0.09	▲ 10.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図 米国の干ばつと春小麦生産地帯(8月10日)



資料：USDA[Wheat Outlook](2021.8.12)をもとに農林水産省で加工

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年7月			2021年1月～7月			2020年1月～12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
中国	3.4	3.8	中国	751.8	39.2	フィリピン	329.8	13.0
メキシコ	26.7	29.9	メキシコ	243.3	12.7	メキシコ	287.3	11.3
インドネシア	14.5	16.3	インドネシア	129.9	6.8	日本	255.6	10.1
日本	12.6	14.1	日本	109.8	5.7	中国	210.3	8.3
スペイン	2.9	3.3	スペイン	49.6	2.6	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	77.8	その他	632.3	33.0	その他	1,311.9	51.7
合計	89.1	100.0	合計	1916.8	100.0	合計	2,535.2	100.0

注1. 7月の輸出検証高は、7月8、15、22、8月5日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日～8月5日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日～12月31日の合計

資料：USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年8月13日)より作成。

< カナダ > 継続する平原三州の干ばつ天候で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、広範囲な干ばつにより単収が低下することから、2021/22年度の生産量は、前月予測から7.5百万トン下方修正され、24.0百万トンと前年度に比べ31.8%減少し、2011/12年度以降最低となる見込み。

主要産地である平原三州では6月末から厳しい高温・乾燥天候が継続し、春小麦及びデュラム小麦の登熟が急速に早まり、結果として単収が低下した。8月予測の単収は、前月予測から0.81トン/ヘクタール下方修正され、2.61トン/ヘクタールと前年度に比べ25.6%減少し、2007/08年度以降最低となった。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では降雨があったものの、生育の改善には遅すぎた。8月10日現在、やや良から良の作柄評価は、春小麦が20%(2週間前22%)、デュラム小麦が19%(同22%)と2週間前より低下した。サスカチュワン州では、8月16日現在、収穫が進展し、収穫進捗率は、冬小麦が83%(前年度54%)、春小麦が13%(同2%)、デュラム小麦が22%(同2%)と前年度を上回っている。マニトバ州では降雨があったものの、高温天候で土壌水分は減少。8月17日現在、やや良から良の作柄評価は前週の48%から46%に低下した。また、穀物の収穫進捗率は、21%と5年平均の14%を上回っている。なお、生産量全体に占める平原三州各州の割合は、アルバータ州が37%、サスカチュワン州が41%、マニトバ州が19%である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、干ばつによる生産量等の減少で、前月に比べ5.5百万トン下方修正され、17.5百万トンと2011/12年度以降最低の見込み。デュラム小麦は生産量の90%がイタリア、北アフリカ等に輸出されるが、トルコではカナダの減産に伴い安価なメキシコ産に切り替える模様。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021年度の2020年8月～2021年6月までの輸出量は、普通小麦が18.5百万トンで、中国(15.5%)、インドネシア(11.6%)、デュラム小麦は5.6百万トンで、イタリア(26.1%)、モロッコ(19.0%)の順。また、期末在庫量は前月予測から0.8百万トン下方修正され3.0百万トンと史上最低の見込み。

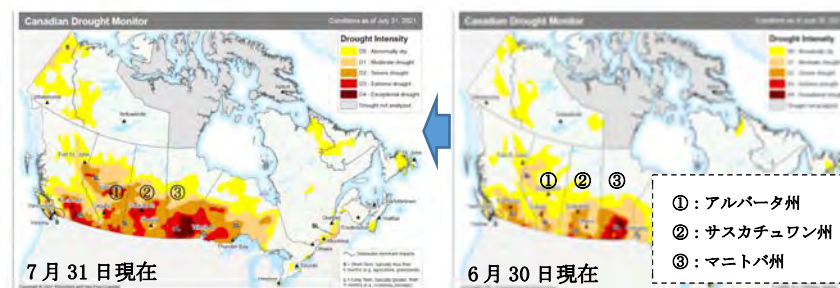
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	24.0 (31.4)	▲ 7.5	▲ 31.8
消費量	9.3	9.9	8.0 (8.9)	▲ 1.2	▲ 19.2
うち飼料用	4.2	4.7	2.8 (4.5)	▲ 1.2	▲ 40.4
輸出量	24.6	27.5	17.5 (22.4)	▲ 5.5	▲ 36.4
輸入量	0.7	0.6	0.7 (0.1)	－	27.3
期末在庫量	5.5	3.8	3.0 (4.9)	▲ 0.8	▲ 20.9
期末在庫率	16.2%	10.2%	11.9% (15.7%)	▲ 0.0	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.20 (9.30)	－	▲ 8.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.61 (3.38)	▲ 0.81	▲ 25.6

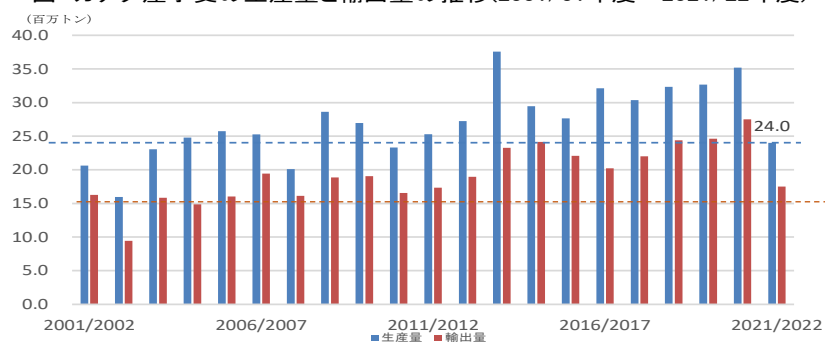
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 July 2021)

図 カナダの平原三州の干ばつ状況（7月31日、6月30日現在）



資料：AAFC「Canadian Drought Monitor」(2021.8.4、2021.7.4)

図 カナダ産小麦の生産量と輸出量の推移(2001/01年度～2021/22年度)



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)をもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 生産量は史上第3位の豊作

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積が増加し、単収が上昇することから、前月予測から1.5百万トン上方修正され、30.0百万トン。前年度に比べ9.1%減少するものの、史上第3位の豊作となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2021.8.12)によれば小麦の国際価格水準の高さや主要産地の大部分で良好な生育条件に恵まれたことから収穫面積は増加した。また、特に2大生産地の西オーストラリア州(WA州)とニューサウスウェールズ州(NSW州)で単収は平均を上回る見込み。なお、豪州の生産量のうち、WA州は36%、NSW州は26%を占めている。

作付時からの豊富な降雨量で生育は順調に進んだが、7月及び8月上旬も、NSW州の南東沿岸地域等では平均を下回ったものの、WA州、NSW州の大部分、南オーストラリア州(SA州)等の各州で平均を上回る降雨に恵まれ、小麦の生長が促進された。

豪州気象庁によれば、今後10月にかけて大半の地域で例年以上の降雨がある見通し。

西豪州穀物協会(GIWA)によれば、同州の2021/22年度の実生産量は11.3百万トン。現状、土壌水分量は十分である。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、価格競争力があることから、前月予測から1.5百万トン上方修正され22.0百万トン。主要輸出国の輸出量の減少やアジア市場に近いことから、特に、米国産小麦の市場であるアジア市場で豪州産需要が高まる見込み。一方、現地情報会社によれば、黒海諸国産小麦価格の上昇とロシアの輸出税の賦課で、アフリカ市場でも豪州産需要が高まると見られている。

また、2020/21年度の輸出も好調で、2020年10月から5月の輸出量は15.8百万トンに達した。同年度の国別輸出量は、前年度に比べ、中国、フィリピン等で増加したが、特にインドネシア、ベトナムは前年度対比でそれぞれ約5倍、約4倍と著しく増加。

豪州統計局によれば、2021年6月の輸出量は2.8万トンと5月の2.7万トンを上回った。輸出先国は、インドネシア(29%)、ベトナム(13%)の順で、中国は第4位(8%)。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	30.0	(29.3)	1.5	▲ 9.1
消費量	8.0	8.5	8.0	(7.8)	-	▲ 5.9
うち飼料用	4.5	5.0	4.5	(4.2)	-	▲ 10.0
輸 出 量	9.1	23.0	22.0	(19.4)	1.5	▲ 4.3
輸 入 量	0.9	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	2.7	4.4	4.6	(5.9)	-	4.6
期末在庫率	15.6%	13.9%	15.3%	(21.6%)	▲ 0.8	1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.20	(13.1)	0.10	1.5
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.27	(2.20)	0.09	▲ 10.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

写真：豪州 NSW 州の小麦の圃場(2021. 7. 26)



NSW 州バレランの豪州硬質小麦 Beckom 種の圃場。

この品種は、天候の変化への適応力があり単収が高い。降雨量が中程度の豪州東海岸地域での栽培に適している。

今年の上半期に降雨量が多く、10月までの長期予報でも降雨量が見込まれるため、豊作の見通し。

表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年6月			2021年1月～6月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
インドネシア	82.3	29.1	インドネシア	328.9	21.7
ベトナム	36.7	13.0	ベトナム	193.8	12.8
フィリピン	31.9	11.3	フィリピン	111.6	7.4
中国	23.6	8.3	中国	83.0	5.5
韓国	16.4	5.8	タイ	78.0	5.2
その他	91.8	32.5	その他	718.1	47.4
合計	282.7	100.0	合計	1,513.4	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > フランス、ドイツ等で降雨による品質低下の懸念

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.7.29)によれば、2021/22年度の生産量(EU27)は、前月予測から1.8百万トン上方修正され、136.4百万トンの見込み。また、農業市場情報システム(AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.7.8)によれば、英国の同年度の普通小麦の生産量は前月予測からの変更は無く、14.5百万トンの見込み。

品種別の生産量(EU27)は、普通小麦が前月に比べ1.9百万トン上方修正され、128.7百万トンと前年度を9.0%上回る見込み。国別には、ドイツ等で下方修正されたものの、ポーランド等で上方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ0.1百万トン下方修正され7.7百万トンと同6.9%上回る見込み。国別にはスロバキア等で上方修正されたものの、イタリア等で下方修正された。

7月は、中央ヨーロッパで降雨が多く、フランス、ドイツを中心に一部に洪水被害が生じた。また、断続的な降雨により、穂発芽等による品質低下や、収穫の遅れが懸念されている。特にドイツでは今後も不安定な天候が続き、更なる品質の低下が懸念されている。一方、スペインでは良好な天候により豊作が見込まれている。

「FranceAgriMer」(2021.8.13)によれば、フランス産小麦の生育状況の良～やや良の割合は、普通小麦が74%、デュラム小麦が65%とそれぞれ前年度の56%、62%を上回っており、生育状況は良好である。収穫進捗率は、普通小麦が降雨により72%と、前年度の100%を下回った。

英国農業園芸開発公社(AHDB)(2021.8.2)によれば、英国では生育が遅れ、7月下旬に冬小麦の収穫が開始された。

【貿易情報・その他】USDAによれば2021/22年度の輸出量は、輸出余力の増加とロシアの価格競争力の低下により、前月予測から1.0百万トン上方修正され35.7百万トン。EU委員会によれば、2020年7月～2021年5月までの輸出量(EU27)は、普通小麦が前年同期を26.3%下回る24.9百万トン、デュラム小麦が同45.0%下回る0.7百万トン。

小麦－EU（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.3	135.6	153.6	(155.7)	0.6	13.3
消費量	122.6	117.9	124.2	(120.2)	0.3	5.3
うち飼料用	52.9	48.1	53.7	(41.4)	0.5	11.7
輸 出 量	41.4	31.2	35.7	(26.6)	1.0	14.5
輸 入 量	7.3	8.7	7.4	(18.2)	▲ 0.4	▲ 14.9
期末在庫量	15.3	10.5	11.6	(11.9)	▲ 1.1	10.4
期末在庫率	9.3%	7.1%	7.3%	(8.1%)	▲ 0.1	0.2

(参考)
 収穫面積(百万ha) 26.16 24.47 25.68 (25.31) ▲ 0.03 4.9
 単収(t/ha) 5.90 5.54 5.98 (5.84) 0.01 7.9
 資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 August 2021)
 IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)
 表内及び()内のデータはEU27ヶ国+英国のデータ

写真 フランス、イル・ド・フランス地域的小麦(食用)圃場(2021年8月13日)



今年の小麦の生育状態は例年以上に良好であったため、収穫時期は7月末から8月頭を想定した。しかし、小雨が続き、小麦が収穫可能になる程度まで乾燥せず、収穫の実施が8月中旬にずれ込んだ。乾燥の目安は、3日間の継続した晴天である。穀粒水分が多い多湿状態で収穫をすると穀物にカビが発生する懸念がある。小麦の品質は、製パン段階で初めて評価が可能であるため、現時点で今年の小麦の品質を判断することは難しい。

表 EUの普通小麦輸出先国(2021年5月、2020年7月～2021年5月、2019年7月～2020年6月)

	2021年5月			2020年7月～2021年5月			2019年7月～2020年6月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	アルジェリア	56.6	30.4	アルジェリア	559.8	24.3	アルジェリア	607.1	16.9
2	ナイジェリア	28.1	15.1	モロッコ	227.3	9.9	サウジアラビア	335.6	9.4
3	サウジアラビア	14.1	7.6	ナイジェリア	219.8	9.5	モロッコ	263.2	7.3
4	エジプト	12.6	6.8	サウジアラビア	183.9	8.0	エジプト	229.4	6.4
5	イスラエル	9.5	5.1	中国	177.3	7.7	中国	222.0	6.2
6	その他	65.1	35.0	その他	1,120.7	48.7	その他	1,932.1	53.8
計		186.0	100.0		2,488.9	108.1		3,589.5	100.0

資料：欧州委員会「EU Cereals export and import」(2021.7.16)をもとに農林水産省で作成

< 中国 > 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.8.5)によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、作付面積が減少したものの単収が上昇したことから、冬小麦が前月予測から 0.7 百万トン上方修正され、前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は前月予測からの変更はなく、同 4.9%増の 7.8 百万トン。

中国中央气象台(2021.8.6)によれば、冬小麦は陝西省や新疆自治区北部の一部を除いて収穫が終了。春小麦も、黒竜江省、青海省、新疆自治区等の一部を除き収穫は終了。

なお、7 月中～下旬の河南省の洪水については、収穫が終了しており影響はない模様。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の実消費量、輸入量とも前月予測からの変更はなく、それぞれ対前年度比 1.2%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.3%減少の 36.0 百万トン)、同 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。

国家糧食和物資儲備局(2021.8.11)によれば、2021 年度の主産地における穀物の買付が進んでおり、8 月 5 日現在、主産地の冬小麦買付数量は 4,437.5 万トンで、河南省では 1,046.6 万トン、江蘇省では 982.8 万トンとなっている。

中国農産品供需形勢分析月報(6月)によれば、国内市場に新穀小麦が大量に流通し、国内小麦価格はやや下落した。依然として高いともろこし価格は今後低下に向かい、小麦の飼料用需要は減少する見込み。なお、加工用需要は大きくないものの、高水準な飼料用消費と、短期的にやや強い政府備蓄用の買付需要から、小麦価格は安定あるいは小幅下落にとどまる見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 6 月の小麦輸入量は前年同時期(3.2 百万トン)の 66.9%増の 5.3 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(31.5%)、米国(27.4%)、豪州(24.4%)の順で、この 3 ヶ国で全体の 83.3%を占めている。なお、1 月から 5 月の輸入先国別の傾向は、4 月から米国が増加傾向、一方、前年度 1 位であったフランスは減少傾向が続いていたが、5 月、6 月とも実績は無くなった。

小麦－中国(冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	136.0 (130.2)	-	1.3
消 費 量	126.0	150.0	148.0 (132.0)	-	▲ 1.3
うち飼料用	19.0	40.0	35.0 (21.0)	-	▲ 12.5
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6
輸 入 量	5.4	10.6	10.0 (7.9)	-	▲ 5.8
期末在庫量	150.5	144.6	141.6 (139.8)	▲ 1.0	▲ 2.1
期末在庫率	118.5%	95.9%	95.0% (104.9%)	▲ 0.7	▲ 0.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.00 (23.8)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.91 (5.71)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図 中国の生産量、輸入量、期末在庫量の推移

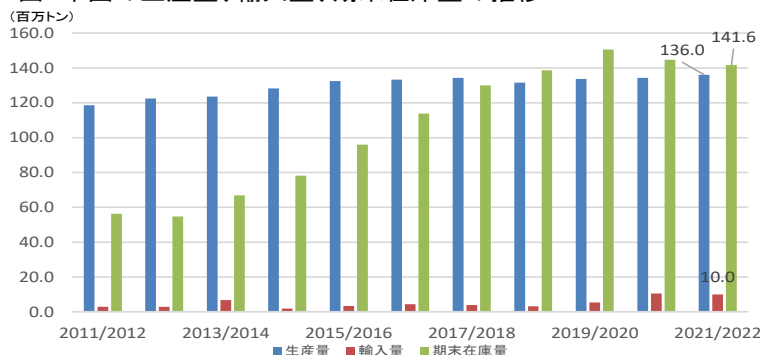


表 中国の小麦輸入先国(2021年6月、2021年1月～2021年6月、2020年1月～2020年12月)

	2021年6月		2021年1月～2021年6月		2020年1月～2020年12月	
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	カナダ	40.9	54.4	カナダ	168.4	31.5
2	米国	26.2	34.9	米国	146.5	27.4
3	豪州	6.1	8.1	豪州	130.5	24.4
4	カザフスタン	1.0	1.4	フランス	65.4	12.2
5	ロシア	0.9	1.2	カザフスタン	13.1	2.4
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.2
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	3.8	0.7
計		75.2	100.0		534.3	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 生産量は冬枯れ等により前月に比べ 12.5 百万トンの下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測に比べ 12.5 百万トン下方修正され、前年度に比べ 15.1%減少の 72.5 百万トンの見込み。

品種別の生産量の内訳は、冬小麦は収穫面積と単収の減少から、前月予測に比べ 13.5 百万トン下方修正され 50.5 百万トン、春小麦は収穫面積と単収が増加することから、同 1.0 百万トン上方修正され、22.0 百万トンの見込み。冬小麦は、中央連邦管区や沿ボルガ連邦管区で 2 月下旬から 3 月上旬に急激な気温上昇でスノーカバーが溶けた後、気温低下による土壌水分の再凍結から小麦が枯死し、収穫面積が減少した。

また、春小麦は、シベリア地方の生育条件が改善されたことや単収が高い中央連邦管区で枯死した冬小麦の代わりに春小麦を再作付したことで、単収及び収穫面積が増加した。一方、沿ボルガ連邦管区やウラル連邦管区では高温と乾燥から作柄が悪化する可能性がある。

なお、ロシア連邦統計庁(2021.6.30)によれば、冬小麦を含む冬穀物の枯死面積は、前年度(14.4 万ヘクタール)を大きく上回る 96.4 万ヘクタールである。

ロシア連邦統計庁によれば、本年度の小麦の収穫面積は前年度に比べ 0.72 百万ヘクタール減少の 28.70 百万ヘクタールで、そのうち、冬小麦は 15.60 百万ヘクタール、春小麦は 13.10 百万ヘクタール。ロシア農業省の速報値によれば、8 月 9 日時点の収穫面積は 16.10 百万ヘクタールで、収穫進捗率は 56.1%である。

本年度の品質は良好で、ロシア国営分析機関「農業分析センター」植物栽培局長によれば、8 月 9 日までに収穫された小麦の 24.7%にあたる 11.9 百万トンについて、1～4 等が 85.8%を占め、前年同日時点の 71.7%を大きく上回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/20 年度の実輸出量は、前月予測に比べ 5.0 百万トン下方修正され、35.0 百万トンの見込み。輸出関税賦課の継続で、EU やウクライナに市場を奪われる可能性がある。ロシア税関統計の速報値によれば、2020/21 年度(2020 年 7 月～2021 年 6 月)の実輸出量は 38.0 百万トンと 2017/ 18 年度に次ぐ高水準。

小麦－ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	73.6	85.4	72.5 (83.5)	▲ 12.5	▲ 15.1
消 費 量	34.5	38.5	40.0 (42.9)	▲ 2.5	3.9
うち飼料用	17.0	19.0	17.0 (18.7)	▲ 2.0	▲ 10.5
輸 出 量	34.5	38.5	35.0 (38.9)	▲ 5.0	▲ 9.1
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.0 (11.0)	▲ 5.0	▲ 16.7
期末在庫率	10.5%	15.6%	13.3% (13.4%)	▲ 4.9	▲ 2.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	28.00 (29.0)	▲ 1.00	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.59 (2.79)	▲ 0.34	▲ 13.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図 ロシア産小麦の生産量と輸出量の推移(2001/02～2021/22年度)

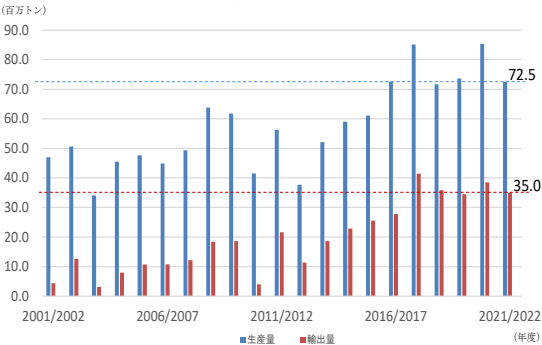


表 可変輸出関税額(小麦)

期間	関税額
2021.07.14～07.20	39.3ドル/トン
2021.07.21～07.27	35.2ドル/トン
2021.07.28～08.03	31.4ドル/トン
2021.08.04～08.10	31.4ドル/トン
2021.08.11～08.17	31.0ドル/トン
2021.08.18～08.24	30.4ドル/トン

輸出通関の前週の市況(ノヴォロシスクの平均FOB価格)が200ドル/トンを超えた場合に、超えた価格に70%の関税がかかる。

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年6月、2020年7月～2021年6月、2019年7月～2020年6月)

	2021年6月			2020年7月～2021年6月			2019年7月～2020年6月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	トルコ	50.6	22.7	エジプト	813.5	21.4	トルコ	794.2	23.6
2	非公表	43.0	19.3	トルコ	698.7	18.4	エジプト	623.1	18.5
3	エジプト	22.3	10.0	非公表	205.4	5.4	バングラデシュ	229.8	6.8
4	イエメン	16.4	7.3	バングラデシュ	182.1	4.8	アゼルバイジャン	131.5	3.9
5	カメルーン	10.7	4.8	パキスタン	157.0	4.1	スーダン	114.3	3.4
6	その他	79.7	35.8	その他	1,747.3	45.9	その他	1,469.7	43.7
計		222.8	100.0		3,804.0	100.0		3,362.6	100.0

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成 (注)2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ等で上方修正も、米国、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

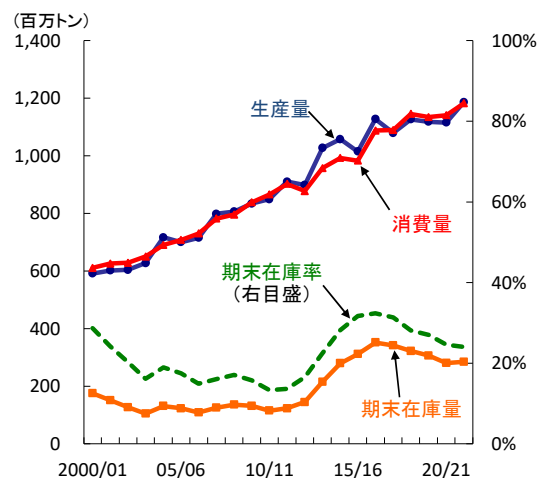
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ロシア等で上方修正も、米国、EU等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナ等で上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021. 8. 12）をもとに農林水産省にて作成

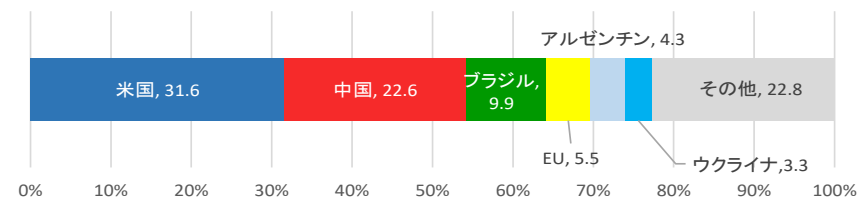
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

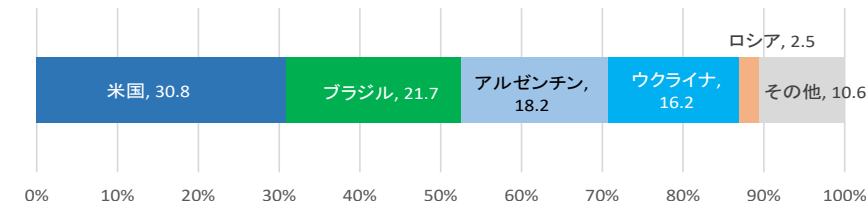
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,118.6	1,115.4	1,186.1	▲ 8.7	6.3
消費量	1,134.9	1,140.9	1,182.2	▲ 1.2	3.6
うち飼料用	715.9	727.7	743.9	▲ 3.7	2.2
輸 出 量	172.4	178.5	197.9	▲ 1.0	10.8
輸 入 量	167.6	184.2	184.6	▲ 3.0	0.2
期末在庫量	306.3	280.8	284.6	▲ 6.6	1.4
期末在庫率	27.0%	24.6%	24.1%	▲ 0.5	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2021）

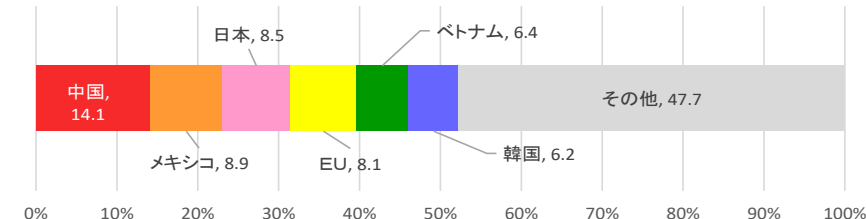
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,186.1百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(197.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(184.6百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響を受け、同年度初めての作柄調査による予測単収が前月予測から 0.3 トン/ヘクタール下方修正されたことから、前月予測から 10.5 百万トン下方修正されたものの、前年度より 4.0%増の 374.7 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.8.23)によれば、主要 18 州におけるドウ進捗率は、85%と前年度同期(86%)より遅れているものの、過去 5 年平均(81%)より進んでいる。デント進捗率は、41%と前年度同期並み、過去 5 年平均(38%)より進んでいる。成熟進捗率は 4%と前年度同期(5%)より遅れているものの、過去 5 年平均並みとなっている。作柄評価は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 60%と前年度同期(64%)を下回っている。

【需要動向】USDA によれば、2021/22 年度の飼料用消費量は、生産量の下方修正及びとうもろこし・飼料価格上昇により前月予測から 2.5 百万トン下方修正され、前年度より減少する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より 0.1%増の 311.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から 2.5 百万トン下方修正され、タイトな供給量と価格高騰、他の輸出国との競争の増加により、前年度より 13.5%減の 61.0 百万トンの見込み。

なお、USDA によれば、輸出検証高(2021 年 1 月 7 日～8 月 5 日)は、48.4 百万トンであり、内訳は中国(15.0 百万トン)、メキシコ(9.4 百万トン)、日本(8.8 百万トン)、韓国(3.1 百万トン)の順である。

USDA によれば、2021/22 年度の期末在庫量は、需要量より供給量の下方修正が大きかったため、前月予測から 4.8 百万トン下方修正されたものの、前年度より 11.2%増の 31.6 百万トンの見込み。期末在庫率は 8.5%で依然として低水準の見込み。

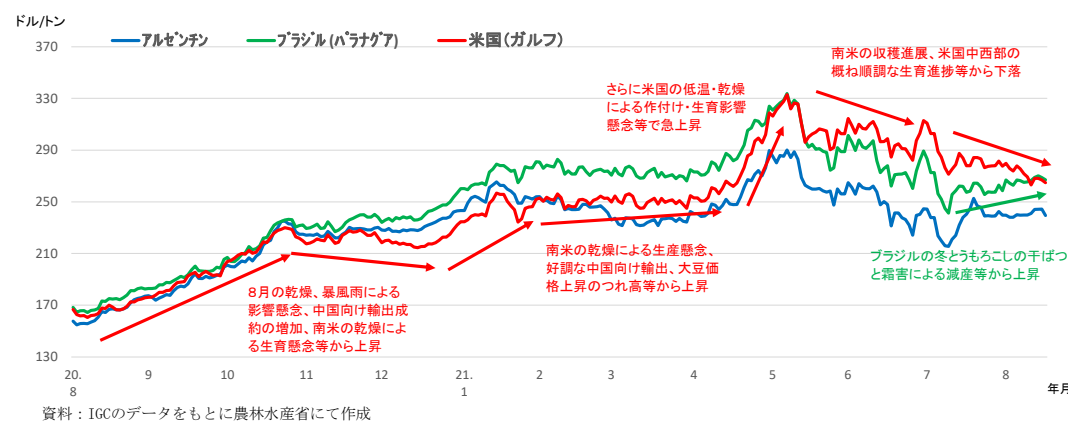
とうもろこしー米国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	346.0	360.3	374.7	▲ 10.5	4.0
消 費 量	309.6	310.8	311.2	▲ 2.3	0.1
うち飼料用	149.9	145.4	142.9	▲ 2.5	▲ 1.7
エタノール用等	123.4	128.9	132.1	-	2.5
輸 出 量	45.1	70.5	61.0	▲ 2.5	▲ 13.5
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	48.8	28.4	31.6	▲ 4.8	11.2
期末在庫率	13.7%	7.4%	8.5%	▲ 1.2	1.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.37	34.19	-	2.5
単収(t/ha)	10.51	10.79	10.96	▲ 0.31	1.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格(FOB)の推移



＜ ブラジル ＞ 2020/21 年度冬とうもろこし生産見直し下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より35.6%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、2020/21年度の実生産量は、ブラジル食料供給公社（CONAB）等の報告を受けて、マトグロッソ州以外の全州の単収が下方修正されたことから、前月予測から6.0百万トン下方修正され、87.0百万トンの見込み。

CONAB月例報告（2021.8.10）によれば、2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響により、前年度比3.1%減の24.9百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされ、収穫中の冬とうもろこしの生産量は、4月～5月の南部の主産地での長引く乾燥天候に加え、6月下旬から7月下旬にかけてのパラナ州等中南部の州の断続的な霜害の影響により、前月予測から6.7百万トン下方修正され、前年度比19.7%減の61.8百万トンの見込み。合計では前年度比15.5%減の86.7百万トンの見込み。（P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。

2020/21年度について、冬とうもろこしの主産地である中西部のマトグロッソ州では、8月13日現在で収穫率は99%。一方、南部のパラナ州では8月16日現在で収穫率は39%で、前年度より12ポイント遅れている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より7.4%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加により前年度より87.0%増の43.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の実輸出量は、生産量が6.0百万トン下方修正されたことに伴い、前月予測から5.0百万トン下方修正され、23.0百万トンの見込み。一方、2021/22年度の輸入量は1.7百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～7月の輸出量は5.6百万トンで、前年同期と比べ22.0%減となっている。内訳は、1位がエジプトで89万トン、2位がイランで78万トン、3位がスペインで55万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

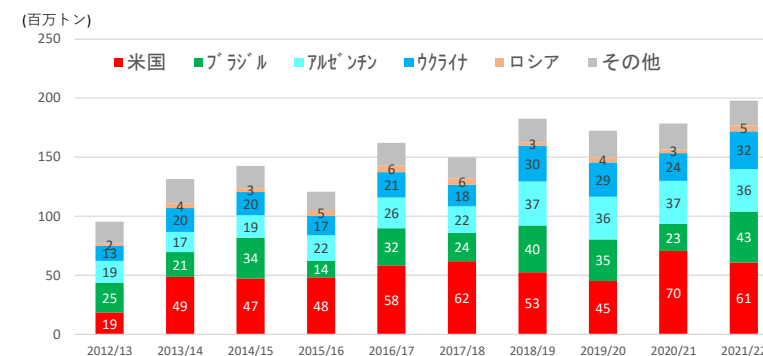
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	118.0	(117.4)	-	35.6
消 費 量	68.5	68.0	73.0	(76.2)	-	7.4
うち飼料用	58.5	58.0	62.0	(55.7)	-	6.9
輸 出 量	35.2	23.0	43.0	(40.0)	-	87.0
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4	(5.8)	▲ 0.5	78.2
期末在庫率	5.0%	5.2%	7.3%	(5.0%)	▲ 0.4	2.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.83	20.80	(20.60)	-	4.9
単収(t/ha)	5.51	4.39	5.67	(5.70)	-	29.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.8.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 5.2%増の 51.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の生産量は、48.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.8.19）によれば、2020/21 年度の収穫進捗率は 98%で、過去 5 年平均より 5 %進んでおり、収穫はほぼ終了した。単収が予想を上回り、生産量は前週から 2.5 百万トン上方修正され、50.5 百万トンの見込み。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.8%増の 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.4%減の 36.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1 ～ 6 月の輸出量は 17.5 百万トンで、前年同期（20.0 百万トン）より 12.6%減。内訳は、1 位がベトナム 3.1 百万トン、2 位がエジプト 1.9 百万トン、3 位がアルジェリア 1.6 百万トン。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	48.5	51.0	(61.8)	-	5.2
消 費 量	13.5	13.7	14.5	(22.5)	-	5.8
うち飼料用	9.5	9.7	10.5	(17.5)	-	8.2
輸 出 量	36.3	36.5	36.0	(36.5)	-	▲ 1.4
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.9	2.4	(8.1)	▲ 0.2	26.6
期末在庫率	7.3%	3.8%	4.8%	(13.7%)	▲ 0.4	1.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.20	6.25	(8.10)	-	0.8
単収(t/ha)	8.10	7.82	8.16	(7.63)	-	4.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の収穫風景
(7 月 27 日撮影)



< 中国 > 収穫面積増で増産、飼料用需要も増加見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、価格高騰と政府の増産政策による収穫面積の増加から前年度より2.8%増の268.0百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.8.6)によれば、8月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは7月の適度な降雨により生長に有利で、おおむね開花期からシルキング期に入っている。河南省等の夏とうもろこしは、節間伸長期からシルキング期に入っている。なお、7月中旬から下旬に発生した河南省の豪雨被害が生産全体に与える影響は大きくないとみられる。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、ASF発生の影響も残るものの、養豚数の回復とレストランの食品残渣や低品質の飼料でまかなっていた小規模畜産経営から大規模経営に移行したことからとうもろこしを主原料に切り替えたため、飼料用消費量が増加し、前年度より1.7%増の294.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ26.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～6月の輸入量は15.3百万トンで、前年同期の4.2倍となり、前年の年間輸入量の1.4倍。内訳は、米国産8.8百万トン(58%)、ウクライナ産6.4百万トン(42%)で、前年同期はウクライナ産が93%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報6月号」によると、6月の国内流通価格は、輸入とうもろこしが続々と国内市場に投入され、新穀とうもろこしの作付面積が大幅に増加したことから市場の供給不安が緩和され、2,920元/トンとやや下落した。一方、6月の外国産価格も2,700元/トンと下落したものの、下落幅が小さかったことから、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

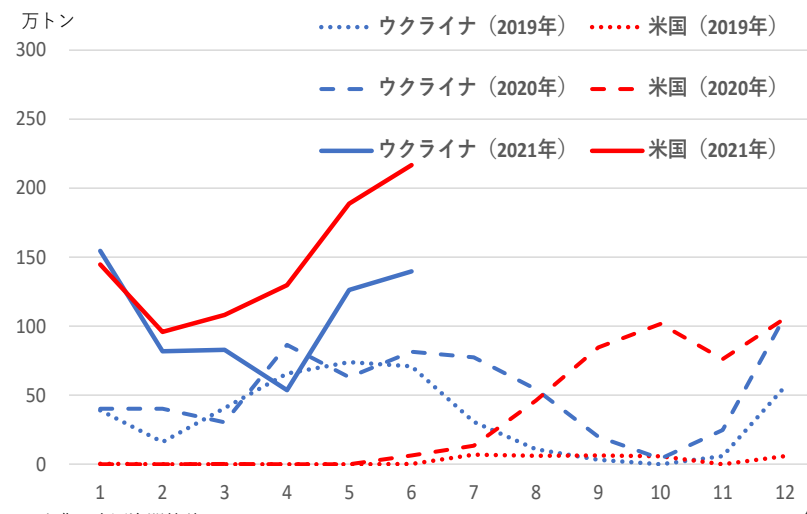
とうもろこしー中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	260.8	260.7	268.0 (272.8)	-	2.8
消費量	278.0	289.0	294.0 (297.7)	-	1.7
うち飼料用	193.0	206.0	211.0 (192.5)	-	2.4
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	7.6	26.0	26.0 (16.5)	-	-
期末在庫量	200.5	198.2	198.2 (182.1)	-	▲ 0.0
期末在庫率	72.1%	68.6%	67.4% (61.1%)	-	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.38 (6.36)	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」(29 July 2021)

図: 中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典: 中国海関統計

注: 2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・バングラデシュ等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

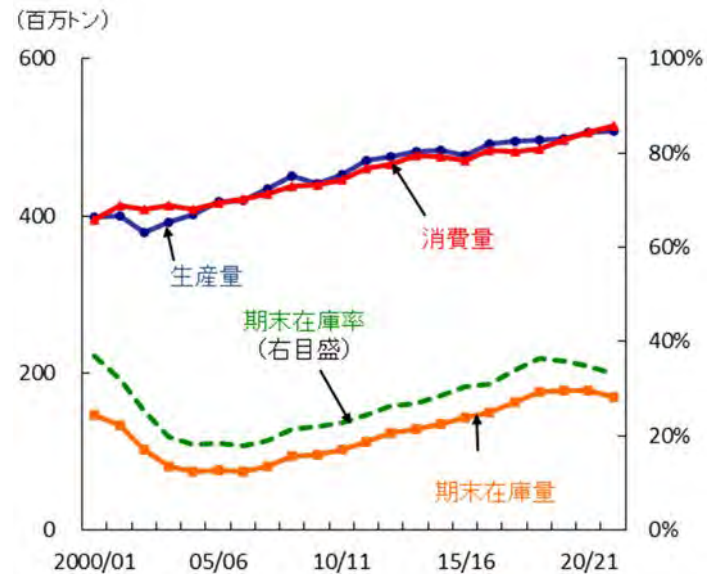
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・バングラデシュ等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021. 8. 12）をもとに農林水産省にて作成

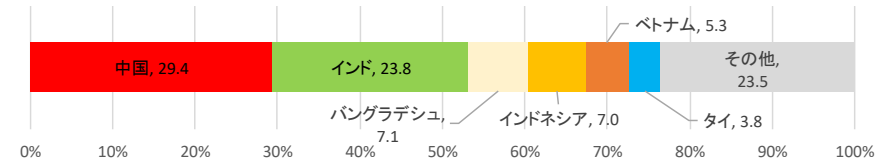
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

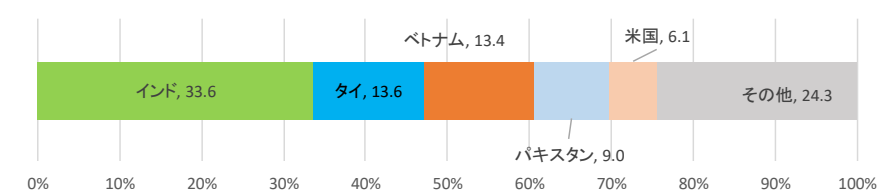
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	497.8	505.8	507.5	1.4	0.3
消 費 量	496.7	506.6	514.3	0.3	1.5
輸 出 量	43.4	48.8	47.7	0.6	▲ 2.4
輸 入 量	42.3	45.9	45.7	0.3	▲ 0.5
期末在庫量	177.8	177.0	170.1	3.2	▲ 3.8
期末在庫率	35.8%	34.9%	33.1%	0.6	▲ 1.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 August 2021)

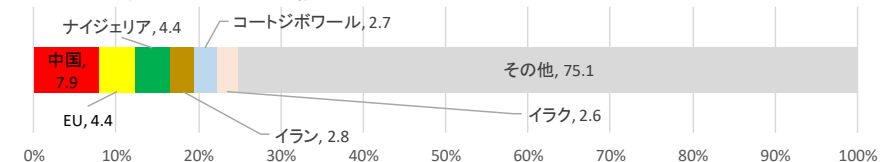
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(507.5百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(47.7百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(45.7百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 約2年ぶりにイラクに輸出

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、南部の平年を上回る降水量などにより単収が減少したから前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比13.3%減の6.3百万トンの見込み。中・短粒種の生産量は全体の約24%を占める。

同「Crop Progress」(2021.8.23)によれば、主要生産6州の8月22日現在の出穂進捗率は93%で過去5年(2016-2020年)平均(95%)より2ポイント遅れている。主要6州の収穫進捗率は14%で過去5年間平均(16%)より2ポイント遅れている。主要6州の作柄評価は、良からやや良が77%と前年度同期(76%)より1ポイント上回っている。そのうちカリフォルニア州は良からやや良が90%となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比0.8%減の4.8百万トンの見込み。輸出量は前月予測からわずかに上方修正され、対前年度比3.3%減の2.9百万トンの見込み。2021年7月、約2年ぶりにイラクへ長粒種12万トンを輸出見込み。米国はイラクに過去20年以上に亘って長粒種を輸出していたが、2020年はその市場を失っていた。輸入量は前月予測からわずかに下方修正され対前年度比13.1%増の1.2百万トンの見込み。

同「Rice Outlook」(2021.8.16)によれば、カリフォルニア米の価格に変化はなく、8月10日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、砕米4%混入、国内精米)の価格は、6月29日までの週と変わらず、カリフォルニア州が深刻な干ばつにみまわれていた2014年3月以来の高値である1,100ドル/トン。一方、8月10日までの週のイラク向け長粒種(2等、砕米4%混入)の価格については、輸出事業者が備蓄向け販売のため低価格のものを好んだことから、6月29日までの週より30ドル下落し600ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

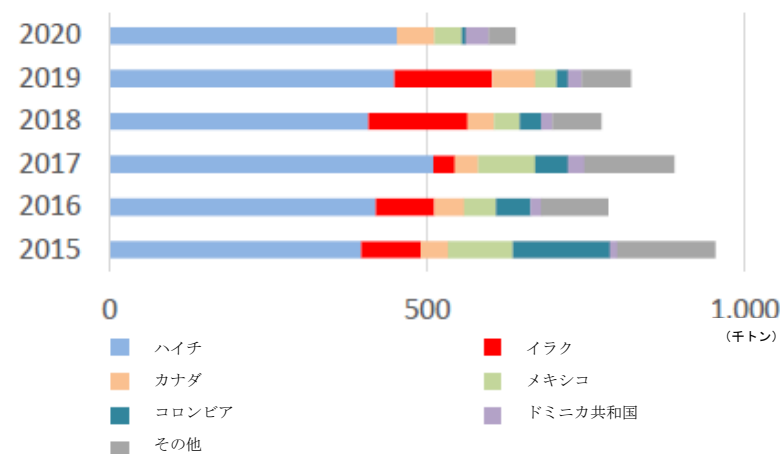
コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約2割

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.3	▲ 0.1	▲ 13.3
消費量	4.6	4.8	4.8	▲ 0.1	▲ 0.8
輸出量	3.0	3.0	2.9	0.0	▲ 3.3
輸入量	1.2	1.1	1.2	▲ 0.0	13.1
期末在庫量	0.9	1.4	1.2	▲ 0.1	▲ 15.7
期末在庫率	12.0%	17.9%	15.4%	▲ 1.6	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.06	-	▲ 12.4
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.45	▲ 0.09	▲ 1.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図：米国産長粒種の主な輸出先国(2015年～2020年)



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」(2021.8.12)

< インド > 2021年7月までにベトナムへの輸出量が約70万トン

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.8%減の121.0百万トンの見込み。同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.8.17)によれば、南部の最近の乾燥した天候は、シーズン前半に十分な降雨があったため、カリフ作物にとってはそれほど懸念されない見込み。一方、東部の多くの地域では降雨があり、コメにとって良好な水分供給が維持されたが、オリッサ州とその周辺地域では中程度から深刻な季節的な干ばつが続いている。

インド農業・農民福祉省の発表(2021.8.6)によると、カリフ作物の作付が進展し、コメは31.0百万ヘクタールとなり、昨年同時期(31.9百万ヘクタール)より減少しているが、過去5年間平均(30.6百万ヘクタール)より増加している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.9%増の108.0百万トンの見通し。2021/22年度の輸出量は、豊富な供給量とコメ価格の高い競争力により前月予測から0.5百万トン増加し、対前年度比15.8%減の16.0百万トンの見通しも高水準。中でも2020年には5千トン程度であったベトナム向けの輸出が、2021年にはこれまでに約70万トンと大きく拡大している。インド商工省の輸出量データによると、2021年5月のコメ全体の輸出量は約158.0万トン(最大はベナン向けの12.1万トン)、そのうちバスマティ米は37.1万トンを占める。

USDA「Rice Outlook」(2021.8.16)によれば、インド産米(碎米5%混入)の8月10日までの週の価格は7月13日までの週より5ドル下落の380ドル/トンであり、価格が下落しているタイ産米との価格差が少なくなり、ベトナム産米と同水準になっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。なお、USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.8.12)によれば、ベトナム産米の国内価格がインド産米と同水準になってきたことから、2022年もベトナムがインドから同程度のコメを輸入する可能性は低い見通し。

コメーインド

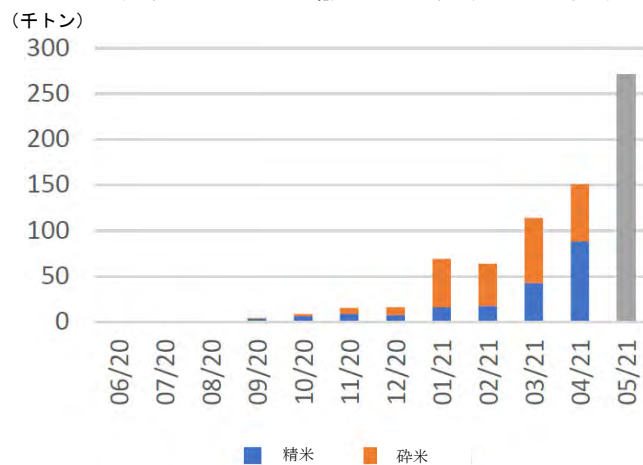
雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	118.9	122.0	121.0 (123.3)	-	▲ 0.8	
消費量	106.0	107.0	108.0 (107.6)	-	0.9	
輸出量	12.5	19.0	16.0 (15.0)	0.5	▲ 15.8	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	29.9	25.9	22.9 (25.0)	▲ 0.5	▲ 11.6	
期末在庫率	25.2%	20.6%	18.5% (20.4%)	▲ 0.5	▲ 2.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	44.40	44.40 (44.75)	-	-	
単収(もみt/ha)	4.08	4.12	4.09 (2.75)	-	▲ 0.7	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021) (単収は精米t/ha)

図: インド産米のベトナムへの輸出(2020年6月~2021年5月)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.8.12)

< 中国 > 引き続き輸入増により期末在庫量が前月から上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、7月末、二期作早稲の大部分は収穫済みで、二期作晩稲は播種・出苗から移植・活着期に入っており、一部は分けつ期に入っている。

中国中央气象台（2021.8.6）によれば、中国の一期作稲の生育段階は、2021年7月29日から8月4日の間に、黒竜江、吉林、遼寧、内モンゴル、江蘇、安徽、湖北、四川、貴州、雲南等地区的の大部の一期作稲は節間伸長から穂孕み・出穂期に入っており、四川、雲南等地区的の一部は乳熟期に入っている。全国の一期作稲の一、二類の苗の割合は27%と70%で、前年同期（28%、72%）比、一類は1ポイント、二類は2ポイント低下している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測から0.3百万トン減少し、対前年度比3.6%増の155.7百万トンの見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度比8.1%増の2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は前月予測から0.4百万トン上方修正され、対前年度比14.3%減の3.6百万トンの見込み。要因は、予想を上回るペースでのミャンマーからの輸入に基づく。2020/21年度の輸入量が0.6百万トン上方修正されたことで2021/22年度の期首在庫が上方修正されたこと、2021/22年度の消費量が下方修正、輸入量が上方修正されたこと等により期末在庫量も上方修正された。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年6月）によれば、6月、コメ市場は消費のオフシーズンにあり、加工業者の注文は減少し稼働率が下がったことでコメの売買は低迷し、晩稲インディカ米とジャポニカ米の価格は下落。早稲インディカ米の価格は横ばいとなった。2021年6月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,860 元/トン、晩稲インディカ米 4,240 元/トン、一期作ジャポニカ米 4,140 元/トンになっている。

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	146.7	148.3	149.0 (150.5)	-	0.5	
消費量	145.2	150.3	155.7 (150.5)	▲ 0.3	3.6	
輸出量	2.6	2.2	2.4 (2.6)	-	8.1	
輸入量	2.6	4.2	3.6 (2.8)	0.4	▲ 14.3	
期末在庫量	116.5	116.5	111.0 (110.6)	1.6	▲ 4.7	
期末在庫率	78.8%	76.4%	70.2% (72.2%)	1.1	▲ 6.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.30)	-	▲ 0.3	
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (4.97)	-	0.9	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021) (単収は精米t/ha)

写真：黒龍江省テチハル市の水稻



当該圃場の水稻は登熟期に入っており、草丈は1.1~1.2mで昨年同期並み。7月のうち19日間は雨が降り、そのうちの一部は豪雨であったが水稻の生長には影響しなかった模様

< タイ > 2年連続の増産により輸出が回復見込み

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は、前月予測と変更なく18.8百万トンと対前年度比6.2%の増加見の見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.8.17)によれば、8月上中旬にかけてモンスーンによる降雨がタイ及び周辺地域にもたらされた。6月1日からの稲の水分状況はほぼ全ての地域で良好な状態を維持している。

USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.6%増の19.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比12.1%増の6.5百万トンの見込みとなり、ベトナムの輸出量(6.4百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。2020/21年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、対前年度比1.8%増の5.8百万トンの見込み。

タイ米輸出業協会によれば、2021年1月から6月までの輸出量は、前年同期比25.8%減少の216.8万トン。輸出先国は、南アフリカ(29.4万トン)、米国(25.2万トン)、日本(17.4万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.8.16)によれば、8月9日までの週のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、7月5日までの週より42ドル/トン下落し392ドル/トンとなっている。タイ通貨のバーツ安のほかコンテナ不足や海上運賃の高騰による新規需要の減少などが下落の要因と見られている。USDAのGAINレポート(2021.8.17)によれば、タイ産米の価格が下落したことで8月中旬にはアフリカやASEAN諸国等からの新規需要が発生した模様。タイ米輸出業協会は、バーツ安の進行による価格の下落によりタイ米の価格競争力が高まっていることから、2021年8月～12月は毎月60～70万トンまで輸出量が回復(同年1月～7月は毎月平均40万トン程度と低迷)するとみており、タイからの輸出量が目標の600万トンを達成する見通しであるとみている。

コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位: 百万精米トン)

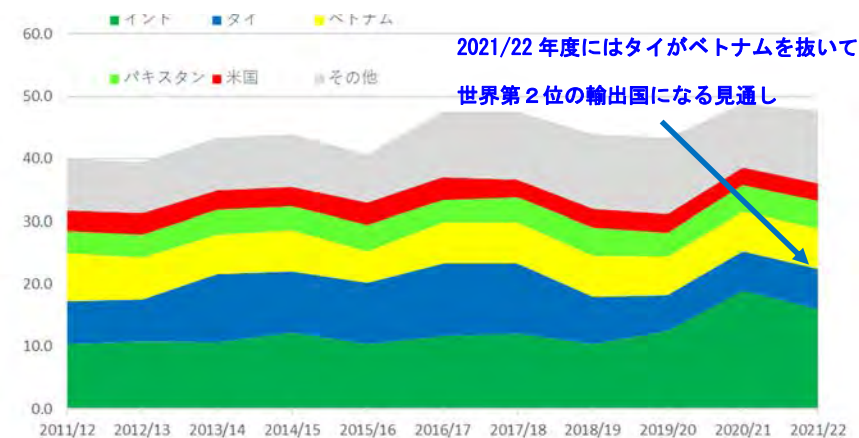
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	17.7	18.8	19.5 (19.8)	-	3.6	
消 費 量	12.3	12.7	12.9 (12.5)	-	1.6	
輸 出 量	5.7	5.8	6.5 (7.5)	-	12.1	
輸 入 量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.5	4.8 (7.2)	-	6.7	
期末在庫率	22.1%	24.4%	24.8% (35.8%)	-	0.4	

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.89	10.40	10.50 (10.58)	-	1.0	
単収(もみt/ha)	2.70	2.74	2.81 (1.87)	-	2.6	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



< ベトナム > 競合するインドとコメの輸出価格が同水準に

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～2021 年 12 月)の生産量は、豊富な降雨量により単収が上方修正されたことから前年度より 0.3 百万トン増加し 27.4 百万トンの見込み。2021/22 年度 (2022 年 1 月～2022 年 12 月)の生産量は、収穫面積が上方修正されたことから前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、対前年度比 1.2%減少の 27.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.6%増の 6.3 百万トンの見込み。また 2021/22 年度の輸出量は前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度比 1.6%増加の 6.4 百万トンの見込み。2020/21 年度の輸入量は、インドからの輸入量の拡大により 0.5 百万トン上方修正され 1.2 百万トンに上る見通し。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月から 7 月の間のコメの輸出量は 349.2 万トンにのぼり、上位をフィリピン (127.1 百万トン)、中国 (64.3 百万トン)、コートジボワール (38.9 百万トン) が占めている。

USDA 「Rice Outlook」 (2021.8.16) によれば、ベトナム産米は、新型コロナウイルスの影響によるサプライチェーンの混乱やコンテナ不足による新規需要の減少、秋作の市場への流通などにより価格を下げ、7 月 13 日までの週より 30 ドル下落し 380 ドル/トン (2020 年 2 月以来の最安値) となり競合するインド産米と同水準となった。

コメベトナム

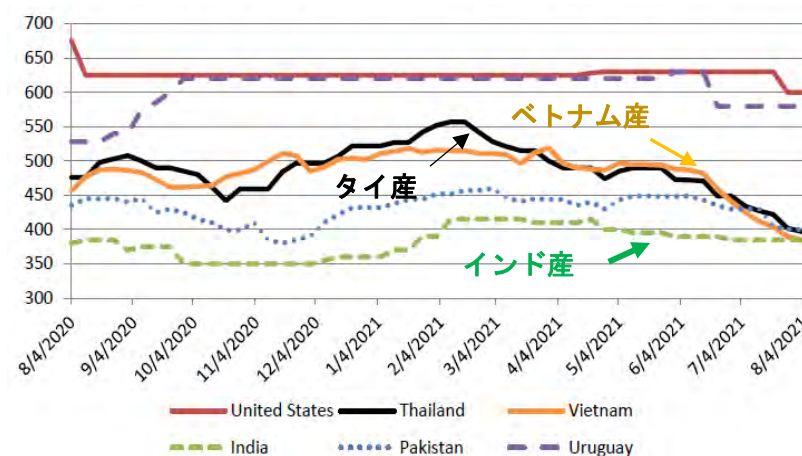
北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1	(28.3)	0.2	▲ 1.2
消費量	21.3	21.2	21.3	(22.6)	-	0.5
輸出量	6.2	6.3	6.4	(6.4)	0.1	1.6
輸入量	0.4	1.2	0.5	(0.6)	-	▲ 58.3
期末在庫量	1.2	2.3	2.2	(2.9)	1.0	▲ 4.3
期末在庫率	4.3%	8.4%	8.0%	(10.0%)	3.6	▲ 0.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35	(7.45)	0.05	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90	(3.80)	-	▲ 1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 August 2021)
IGC 「Grain Market Report」 (29 July 2021) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種の FOB 価格の推移 (インド、タイ、ベトナムの輸出価格が同水準)



Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

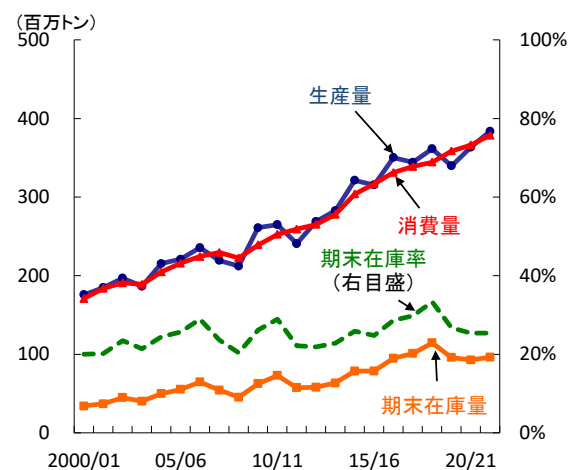
消費量 前年度比 前月比

・中国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・カナダで上方修正も、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。
史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2021. 8. 12）をもとに農林水産省で作成

◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

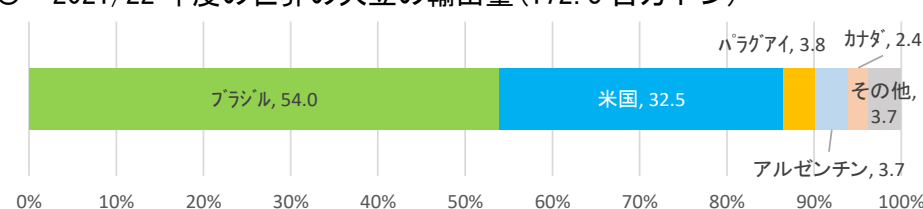
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	339.7	363.3	383.6	▲ 1.6	5.6
消 費 量	358.4	366.1	378.6	▲ 2.5	3.4
うち搾油用	312.4	319.1	329.6	▲ 2.5	3.3
輸 出 量	165.1	164.9	172.3	▲ 0.5	4.5
輸 入 量	165.0	164.7	170.6	▲ 1.1	3.6
期末在庫量	95.9	92.8	96.2	1.7	3.6
期末在庫率	26.7%	25.4%	25.4%	0.6	0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2021）

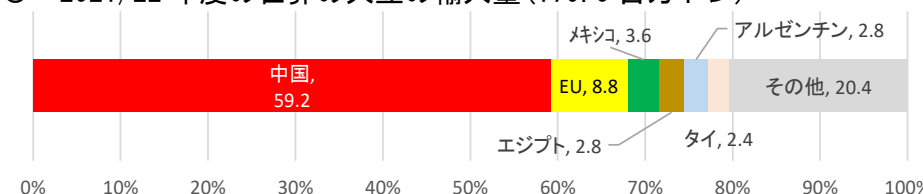
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (383.6 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.3 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (170.6 百万トン)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 高温乾燥による単収下方修正も収穫面積増で増産、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、コーンベルト北西部（ミネソタ州、南北ダコタ両州）の高温乾燥の影響を受け、同年度初めての作柄調査による予測単収が前月予測から 0.06 トン/ヘクタール下方修正されたことから、前月予測から 1.8 百万トン下方修正された。しかし、主に大豆価格の上昇を背景とする収穫面積の増加から前年度より 4.9%増の 118.1 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2021.8.23)によれば、主要 18 州における開花進捗率は、97 %と前年度同期（99%）より遅れているものの、過去 5 年平均並みとなっている。着莢進捗率は、88 %と前年度同期（91%）より遅れているものの、過去 5 年平均（87%）より進んでいる。落葉進捗率は、3 %と前年度同期（4 %）より遅れているものの、過去 5 年平均並みとなっている。作柄評価は、コーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 56%と前年度同期（69%）を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の下方修正に伴い搾油用需要が前月予測から 0.6 百万トン下方修正されたものの、大豆由来のバイオ燃料需要の増加により前年度より搾油用需要を中心に増加することから、前年度より 2.8%増の 63.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 9.1%減の 55.9 百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～8月5日）は、19.2 百万トンであり、内訳は中国（7.5 百万トン）、メキシコ（2.4 百万トン）、エジプト（1.4 百万トン）、インドネシア（1.3 百万トン）、日本（1.1 百万トン）の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前年度より 3.0%減の 4.2 百万トンの見込み。期末在庫率は 3.5%で依然として低水準の見込み。

大豆－米国

（単位：百万トン）

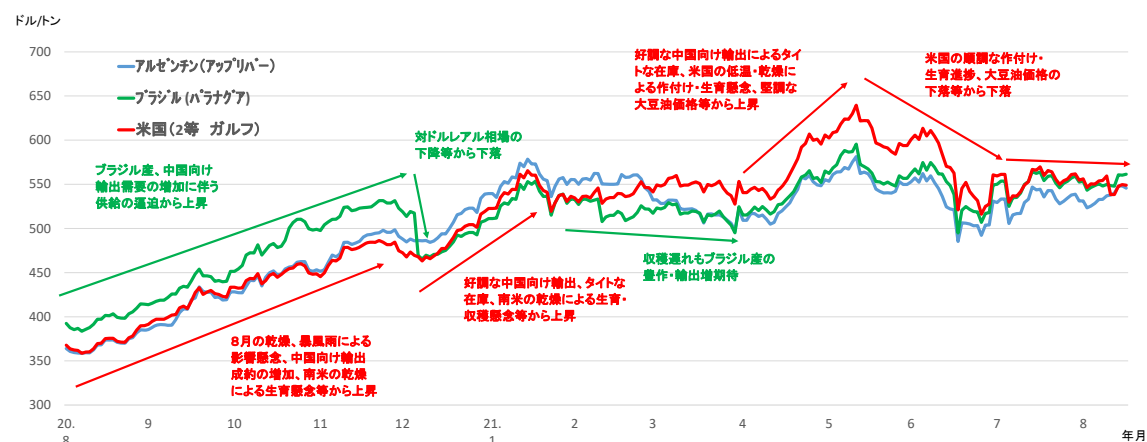
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	112.6	118.1	▲ 1.8	4.9
消費量	61.9	61.5	63.2	▲ 0.6	2.8
うち搾油用	58.9	58.7	60.0	▲ 0.6	2.3
輸出量	45.7	61.5	55.9	▲ 0.5	▲ 9.1
輸入量	0.4	0.5	1.0	-	75.9
期末在庫量	14.3	4.3	4.2	▲ 0.0	▲ 3.0
期末在庫率	13.3%	3.5%	3.5%	0.0	0.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.33	33.31	35.09	-	5.3
単収(t/ha)	3.19	3.38	3.36	▲ 0.06	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

ブラジル貿易統計によれば、2021 年 7 月の輸出量は 8.7 百万トンで、前年同月（10.0 百万トン）に比べ 13%減。2021 年 1～7 月の輸出量は 66.2 百万トンで、前年同期に比べ 4 %減となっている。内訳は、1 位が中国で 45.6 百万トン、2 位がスペインで 2.8 百万トンとなっている。

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021)

資料：CONAB穀物レポート（2021.8.10）

資料：USDA「PS&D」（2021.8.12）のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より13.0%増の52.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが開始される。なお、2020/21年度の収穫は6月下旬で終了した。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.4%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より71.6%増の6.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、上流の干ばつによるパラナ川の水位低下から輸出港の穀物輸能力が制限されるため、3.7百万トンまで落ち込む見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～6月の輸出量は1.8百万トンで、前年同期（4.4百万トン）より57.3%減。内訳は、1位が中国95.7万トン、2位がエジプト59.5万トン、3位がチリ4.4万トンとなっている。引き続き、7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から段階的に最大33%へ引き上げ、現在も継続中。

写真：北部サンタフェ州のほ場における2021/22年度
大豆の作付け（11月予定）準備風景
（7月30日撮影）
トラクタに装着したディスクハローをほ場にかけて整地している

大豆ーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	48.8	46.0	52.0 (50.0)	-	13.0	
消費量	45.9	48.7	50.4 (47.5)	-	3.4	
うち搾油用	38.8	41.5	43.0 (41.2)	-	3.6	
輸 出 量	10.0	3.7	6.4 (7.0)	-	71.6	
輸 入 量	4.9	5.0	4.7 (4.9)	-	▲ 6.0	
期末在庫量	26.7	25.3	25.3 (6.3)	▲ 0.2	-	
期末在庫率	47.8%	48.3%	44.6% (11.6%)	▲ 0.4	▲ 3.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.60	17.20 (17.35)	-	3.6	
単収(t/ha)	2.92	2.77	3.02 (2.88)	-	9.0	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 August 2021)

IGC「Grain Market Report」(29 July 2021)



< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

なお、中国中央气象台（2021.8.6）によれば、黒竜江省等東北地区は、播種期以来良好な天候に恵まれ、8月上旬現在、開花期から着莢期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、国内の養豚業者の収益性悪化により搾油用需要が前月予測から2.0百万トン下方修正され、過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、前年度より4.6%増の117.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、国内搾油用需要の下方修正に伴い、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より4.1%増の101.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～6月の輸入量は49.0百万トンと、前年同期比で8.7%増。内訳は、ブラジル産26.1百万トン（53%）、米国産21.6百万トン（44%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、6月の輸入量はブラジル産が10.5百万トンと98%を占めた。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報6月号」によると、6月、生産地の農家の手元に残っている大豆在庫が底をついたものの、南部は大豆製品消費のオフシーズンに入ったため、国産大豆の需要は低調となった。また、この2年間の政府備蓄在庫の競売が6月に行われたため、販売業者は競売後、大豆の市場価格が抑制されることを懸念し、積極的に大豆を売却したことなどから、6月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は前月からやや下落したものの、6,040元/トンで依然高水準である。一方、6月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,800元/トンと前月から上昇し、内外価格差は縮小した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

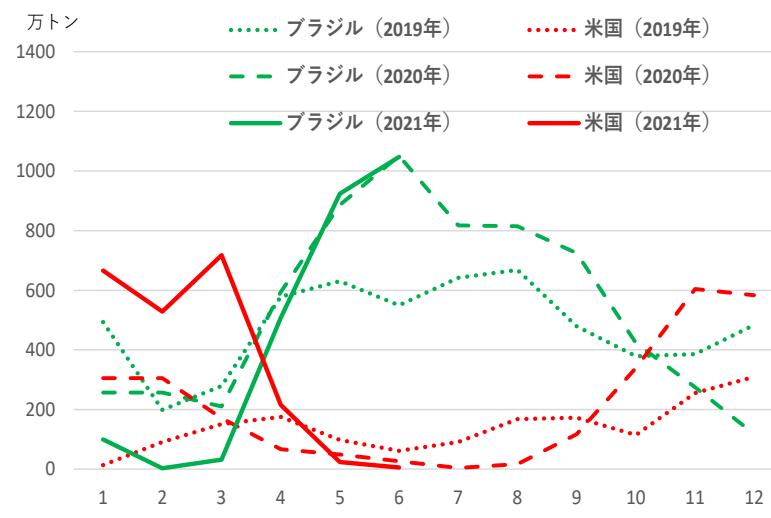
大豆—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	19.0	(18.7)	-	▲ 3.1
消費量	109.2	112.5	117.7	(121.5)	▲ 2.0	4.6
うち搾油用	91.5	94.0	98.0	(102.5)	▲ 2.0	4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	-	-
輸 入 量	98.5	97.0	101.0	(103.5)	▲ 1.0	4.1
期末在庫量	26.8	30.8	33.0	(33.7)	2.0	7.1
期末在庫率	24.5%	27.4%	28.0%	(27.7%)	2.1	0.7
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60	(9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98	(1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2021)、
IGC「Grain Market Report」(29 July 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海關統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 高温乾燥の影響懸念も東部の降雨で緩和

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.9%減の6.1百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.8.17)によれば、大豆生産面積の約7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では温暖な天候で生育が進んでいる。一方、西部カナダの平原3州では、乾燥傾向が継続し、一部地域では降雨があったものの、干ばつ被害を受けた可能性がある。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、搾油用需要を中心に、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度より0.6%増の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、旺盛な輸出需要のため、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より10.9%減の4.1百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2020/21年度(2020年8月～2021年7月)の2020年8月～2021年6月の輸出量は361.4万トンで、国別では、イラン(86.3万トン)、イタリア(38.6万トン)、アルジェリア(35.6万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.1 (6.2)	-	▲ 3.9
消 費 量	2.6	2.4	2.5 (2.4)	▲ 0.1	0.6
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	▲ 0.2	5.6
輸 出 量	3.9	4.6	4.1 (4.3)	0.2	▲ 10.9
輸 入 量	0.3	0.5	0.4 (0.4)	-	▲ 21.6
期末在庫量	0.6	0.5	0.4 (0.3)	0.1	▲ 11.1
期末在庫率	9.7%	6.4%	6.1% (4.5%)	1.8	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.15)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.11	2.90 (2.86)	-	▲ 6.8

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 August 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 July 2021)

写真：西部サスカチュワン州の大豆ほ場風景
(7月18日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 8 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--